



令和2年3月
国土交通省
全国道の駅連絡会



令和元年度

「道の駅」と大学の連携・交流に関する 取り組みのご紹介

— 目 次 —

はじめに

| | |
|--|----|
| 1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取り組みについて | 1 |
| 2. 令和元年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果） | 2 |
| (1) 就労体験型 基本協定締結大学 | 2 |
| (2) 就労体験型 受入「道の駅」 | 3 |
| (3) マッチング結果 | 4 |
| (4) 令和元年度就労体験型実習結果 | 6 |
| ① 実習結果概要一覧 | 6 |
| ② 「道の駅」別実習結果概要 | 8 |
| (5) 基本協定（ひな形）、各様式等 | 22 |
| 3. 令和元年度 連携企画型実習結果 | 29 |
| (1) 連携企画型実習状況 | 29 |
| (2) 令和元年度 連携企画型実習結果概要 | 30 |

【はじめに】

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実地的な知識や技術を学ぶことが重要です。

このため、国土交通省では「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。

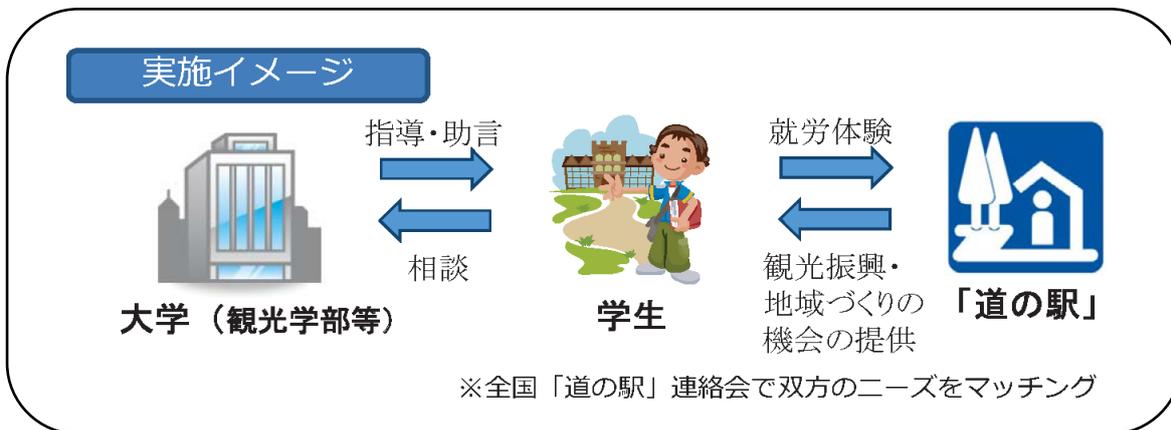
これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。

本書は、この「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みに関して、今年度実施された「就労体験型実習（インターンシップ）」の実績を紹介するものです。

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取り組みについて

「道の駅」と大学の連携・交流に関する一環として、平成27年度より、観光や地域づくりを学ぶ学生が、夏期休暇等を利用し、「道の駅」で就労体験型実習（インターンシップ）を実施する取り組みが始まっています。

本取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図ります。



具体的な取り組みとしては、「就労体験型」と「連携企画型」の2種類があります。過去の実施例としては、以下のとおりです。

| <就労体験型> | <連携企画型> |
|--|--|
| <p> 「霧の森」(愛媛県四国中央市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。 ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加 <p>・H15からこれまで約110名が実施 ・そのうち2名が「道の駅」へ就職</p> <p> 大学生が企画したイベント  地元名産品「霧の森大福」</p> | <p> 京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン <p> 包装デザイン打合せ</p> <p> 「かなん」(大阪府河南町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発 <p> 道の駅弁当「かなん冬の恵み」</p> |

本取り組みによって期待される効果としては、次のようなものがあります。

- 〈大学のメリット〉
- 地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確である「道の駅」をフィールドとして、机上では得ることが難しい学習が可能
 - 地域の活性化の現場における将来の人材育成
- 〈「道の駅」のメリット〉
- 若者の視点を活かした地域づくり、若者の元気による実行力のある企画の実施
 - HP 作成や SNS 等の若者の IT スキル、情報ネットワークを活用した情報発信

2. 令和元年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果）

（1）就労体験型 基本協定締結大学

就労体験型実習に関して、全国道の駅連絡会と基本協定を締結している大学は、令和元年12月現在、一つのコンソーシアムを含む67大学（大学数としては71大学）となっています。

表-1 就労体験型 基本協定締結大学 一覧

令和元年12月時点

| No. | 都道府県 | 大学名 | No. | 都道府県 | 大学名 |
|-----|--------|-----------|-------|------|----------------------------------|
| 1 | 北海道 | 北海道大学 | 35 | 長野県 | 長野大学 |
| 2 | | 稚内北星学園大学 | 36 | | 松本大学 |
| 3 | | 北星学園大学 | 37 | 岐阜県 | 中部学院大学 |
| 4 | | 旭川大学 | 38 | | 中部学院大学短期大学部 |
| 5 | | 北海商科大学 | 39 | 静岡県 | 常葉大学 |
| 6 | | 釧路公立大学 | 40 | 愛知県 | 名古屋外国語大学 |
| 7 | | 釧路短期大学 | 41 | | 名城大学 |
| 8 | | 北見工業大学 | 42 | 三重県 | 鈴鹿大学 |
| 9 | 青森県 | 青森大学 | 43 | 京都府 | 福知山公立大学 |
| 10 | | 青森中央学院大学 | 44 | | 平安女学院大学 |
| 11 | 岩手県立大学 | 45 | 立命館大学 | | |
| 12 | 岩手県 | 岩手大学 | 46 | 大阪府 | 大阪観光大学 |
| 13 | 山形県 | 東北芸術工科大学 | 47 | | 近畿大学 |
| 14 | | 東北公益文科大学 | 48 | | 阪南大学 |
| 15 | | 山形大学 | 49 | | 桃山学院大学 |
| 16 | 福島県 | 福島大学 | 50 | 兵庫県 | 神戸海星女子学院大学 |
| 17 | 茨城県 | 茨城キリスト教大学 | 51 | | 神戸芸術工科大学 |
| 18 | | 茨城県立農業大学校 | 52 | | 流通科学大学 |
| 19 | | 筑波大学 | 53 | | 神戸学院大学 |
| 20 | 栃木県 | 宇都宮大学 | 54 | 奈良県 | 帝塚山大学 |
| 21 | | 佐野短期大学 | 55 | 和歌山県 | 和歌山大学 |
| 22 | | 文星芸術大学 | 56 | 鳥取県 | 鳥取大学 |
| 23 | 埼玉県 | 淑徳大学 | 57 | 岡山県 | 倉敷芸術科学大学 |
| 24 | | 立教大学 | 58 | | 岡山理科大学 |
| 25 | | 城西大学 | 59 | 徳島県 | 徳島大学 |
| 26 | | 平成国際大学 | 60 | 香川県 | 香川大学 |
| 27 | 千葉県 | 江戸川大学 | 61 | 愛媛県 | 大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会(5大学)※ |
| 28 | | 城西国際大学 | | | |
| 29 | 東京都 | 跡見学園女子大学 | 62 | 福岡県 | 九州産業大学 |
| 30 | | 帝京大学 | 63 | 長崎県 | 長崎県立大学 |
| 31 | | 法政大学 | 64 | | 長崎国際大学 |
| 32 | | 専修大学 | 65 | | 長崎総合科学大学 |
| 33 | 神奈川県 | 文教大学 | 66 | 大分県 | 日本文理大学 |
| 34 | 山梨県 | 山梨学院大学 | 67 | 宮崎県 | 宮崎大学 |

※「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」は、愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学より構成されており、大学数としては71大学となる。

※都道府県は、協定締結先（学長・学部長等）により整理している。

(2) 就労体験型 受入「道の駅」

就労体験型実習に対して受入を表明している「道の駅」は、令和元年12月現在、61駅となっています。

表-2 就労体験型受入「道の駅」一覧

| No. | 都道府県 | 市町村 | 道の駅名 | 備考 |
|-----|------|-------|--------------|--------------|
| 1 | 北海道 | 士幌町 | ピア21しほろ | H27重点 |
| 2 | | 小清水町 | はなやか小清水 | |
| 3 | | 日高町 | 樹海ロード日高 | |
| 4 | | 剣淵町 | 絵本の里けんぶち | |
| 5 | | 網走市 | 流水街道網走 | |
| 6 | | 厚岸町 | 厚岸グルメパーク | |
| 7 | 青森県 | 十和田市 | とわだ | |
| 8 | | | 奥入瀬 | |
| 9 | | 青森市 | なみおか | |
| 10 | | 弘前市 | ひろさき | |
| 11 | | 八戸市 | なんごう | |
| 12 | 宮城県 | 石巻市 | 上品の郷 | H29地域交通拠点モデル |
| 13 | 秋田県 | 由利本荘市 | 岩城 | |
| 14 | | 湯沢市 | おがち | |
| 15 | 山形県 | 米沢市 | 田沢 | |
| 16 | | | 米沢 | H26重点 |
| 17 | 福島県 | 天栄村 | 羽鳥湖高原 | |
| 18 | | 磐梯町 | ばんだい | |
| 19 | 茨城県 | 常陸太田市 | さとみ | |
| 20 | | | ひたちおおた | H26重点 |
| 21 | | 五霞町 | ごか | |
| 22 | 栃木県 | 栃木市 | みかも | |
| 23 | 群馬県 | 長野原町 | ハッ場ふるさと館 | |
| 24 | | 片品村 | 尾瀬かたしな | |
| 25 | | 高山村 | 中山盆地 | |
| 26 | 埼玉県 | 吉見町 | いちこの里よしみ | |
| 27 | | 杉戸町 | アグリパークゆめすぎと | |
| 28 | 千葉県 | 南房総市 | とみうら | 全国モデル |
| 29 | | 鴨川市 | 鴨川オーシャンパーク | |
| 30 | | 旭市 | 季楽里あさひ | H27重点 |
| 31 | 新潟県 | 十日町市 | 瀬替えの郷せんだ | H26重点 |
| 32 | 長野県 | 長野市 | 信州新町 | |
| 33 | | 飯島町 | 花の里いいじま | |
| 34 | | | 田切の里 | H26重点 |
| 35 | | 立科町 | 女神の里たてしな | |
| 36 | 岐阜県 | 大野町 | パレットピアおおの | H26重点 |
| 37 | | 関市 | むげ川 | |
| 38 | 静岡県 | 富士宮市 | 朝霧高原 | |
| 39 | | 沼津市 | くるら戸田 | H26重点 |
| 40 | 滋賀県 | 竜王町 | アグリパーク竜王 | H27重点 |
| 41 | | | 竜王かがみの里 | H27重点 |
| 42 | 兵庫県 | 西脇市 | 北はりまエコミュージアム | |
| 43 | 奈良県 | 葛城市 | ふたかみパーク當麻 | |
| 44 | 和歌山県 | かつらぎ町 | くしがきの里 | |
| 45 | | | 紀の川万葉の里 | |
| 46 | | 紀の川市 | 青洲の里 | |
| 47 | 島根県 | 松江市 | 本庄 | |
| 48 | 岡山県 | 西粟倉村 | あわくらんど | |
| 49 | | 笠岡市 | 笠岡ベイファーム | |
| 50 | | 鏡野町 | 奥津温泉 | |
| 51 | 広島県 | 三原市 | みはら神明の里 | |
| 52 | | 三次市 | ゆめランド布野 | H27重点 |
| 53 | 山口県 | 山口市 | きらら あじす | |
| 54 | 香川県 | 三豊市 | たからだの里さいた | H27重点 |
| 55 | 佐賀県 | 鹿島市 | 鹿島 | H26重点 |
| 56 | | 吉野ヶ里町 | 吉野ヶ里 | |
| 57 | 長崎県 | 西海市 | さいかい | |
| 58 | 熊本県 | 阿蘇市 | 阿蘇 | H27重点 |
| 59 | | 熊本市 | すいかの里植木 | |
| 60 | 大分県 | 豊後大野市 | みえ | |
| 61 | 鹿児島県 | 阿久根市 | 阿久根 | |

(3) マッチング結果

令和元年度に実施された就労体験型実習において、大学（学生）の希望する「道の駅」とマッチングを行った結果、協定を締結している5大学のべ20名が全国の14箇所の「道の駅」で実習を行うこととなりました。

表-3 令和元年度就労体験型実習 参加大学一覧

| No. | 都道府県名 | 大学名 |
|-----|-------|-----------|
| 1 | 茨城県 | 茨城県立農業大学校 |
| 2 | 埼玉県 | 立教大学 |
| 3 | 千葉県 | 江戸川大学 |
| 4 | 神奈川県 | 専修大学 |
| 5 | 大阪府 | 大阪観光大学 |

表-4 令和元年度就労体験型実習受入「道の駅」と実習者数一覧

| 都道府県 | 市町村名 | 道の駅名 | 大学名 | 人数 |
|------|-------|-------------|-----------|----|
| 北海道 | 日高町 | 樹海ロード日高 | 立教大学 | 1 |
| | | | 専修大学 | 2 |
| 山形県 | 米沢市 | 米沢 | 立教大学 | 1 |
| | | | 専修大学 | 2 |
| 福島県 | 磐梯町 | ばんだい | 立教大学 | 1 |
| 茨城県 | 常陸太田市 | ひたちおおた | 茨城県立農業大学校 | 2 |
| 埼玉県 | 杉戸町 | アグリパークゆめすぎと | 江戸川大学 | 2 |
| 千葉県 | 旭市 | 季楽里あさひ | 立教大学 | 1 |
| | 南房総市 | とみうら | 江戸川大学 | 1 |
| 新潟県 | 十日町市 | 瀬替えの郷せんだ | 専修大学 | 1 |
| 和歌山県 | かつらぎ町 | 紀の川万葉の里 | 大阪観光大学 | 1 |
| | 紀の川市 | 青洲の里 | 大阪観光大学 | 1 |
| 岡山県 | 鏡野町 | 奥津温泉 | 大阪観光大学 | 1 |
| | 西粟倉村 | あわくらんど | 大阪観光大学 | 1 |
| 香川県 | 三豊市 | たからだの里さいた | 大阪観光大学 | 1 |
| 熊本県 | 阿蘇市 | 阿蘇 | 立教大学 | 1 |

11道県

14駅

5大学 20名

(4) 令和元年度就労体験型実習結果

令和元年度における就労体験型実習結果について、①に実習結果概要一覧、②に「道の駅」別の実習結果概要を示します。

① 実習結果概要一覧 ※一部、取組状況写真を撮っていなかったこと等により、②「道の駅」別の実習結果概要のない取り組みがあります。

| 都道府県 | 市町村 | 道の駅名 | 大学名 | 実習概要 |
|------|-------|-----------------|-----------|---|
| 北海道 | 日高町 | 樹海ロード日高 | 立教大学 | ○実習期間：令和元年8月11日(日)～8月26日(月)【14日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①地域の食材を使った店頭で販売する食品の開発、試食、販売(ヤマメの春巻き) ②商品の販売促進のPOPづくり ③町内の観光事業関係者・副町長との対談 ④店頭でのレジ打ち |
| | | | 専修大学 | ○実習期間：令和元年8月18日(日)～8月26日(月)【9日間】 ○実習生：専修大学 学生2名 ○実習内容：①地域野菜で試食販売・販売促進 ②店頭のPOP作り、トートバックの売り出し ③地域の魅力を調査、地域で活躍する方へのインタビュー ④キャンプを通じて地域の自然体験 |
| 山形県 | 米沢市 | 米沢 | 立教大学 | ○実習期間：令和元年9月14日(土)～9月18日(水)【5日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①レジ横での袋詰め ②レジ ③店内清掃 ④品出し |
| | | | 専修大学 | ○実習期間：令和元年8月10日(土)～8月18日(日)【9日間】 ○実習生：専修大学 学生2名 ○実習内容：①レジ打ち業務 ②品出し ③検品業務 ④袋詰め業務 |
| 福島県 | 磐梯町 | ばんだい | 立教大学 | ○実習期間：令和元年8月25日(月)～9月14日(土)【13日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①商品販売・イベント手伝い ②道の駅周辺マップ作成、配布 ③野菜のレシピ作成 ④敬老会の景品の袋詰め作業、運び出し |
| 茨城県 | 常陸太田市 | ひたちおおた | 茨城県立農業大学校 | ○実習期間：令和元年8月5日(月)～8月9日(金)【5日間】 ○実習生：茨城県立農業大学校 学生2名 ○実習内容：①JA直売所での農産物商品調整作業(袋詰め、値段貼付) ②ハウスでのトマト栽培管理 ③トマト摘み取り体験補助 ④貨客混載事業における高速バス農産物積込補助 |
| 埼玉県 | 杉戸町 | アグリパーク ゆめすぎと | 江戸川大学 | ○実習期間：令和元年10月24日(木)～10月28日(月)【5日間】 ○実習生：江戸川大学 学生2名 ○実習内容：①農園就業体験 ②花屋さん就業体験 ③食堂めぐり亭就業体験 ④農産物直売所就業体験 |
| 千葉県 | 旭市 | 季楽里あさひ | 立教大学 | ○実習期間：令和元年8月10日(土)～8月17日(土)【7日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①野菜の袋詰め ②品だし |

| 都道府県 | 市町村 | 道の駅名 | 大学名 | 実習概要 |
|------|-------|-----------|--------|---|
| 千葉県 | 南房総市 | とみうら | 江戸川大学 | ○実習期間：令和元年7月1日（月）～7月7日（日）【7日間】 ○実習生：江戸川大学 学生1名 ○実習内容：①枇杷の加工 ②イチゴ農園の手伝い ③ショップの手伝い ④テイクアウトの手伝い |
| 新潟県 | 十日町市 | 瀬替えの郷せんだ | 専修大学 | ○実習期間：令和元8年8月15日（木）～8月20日（火）【6日間】 ○実習生：専修大学 学生1名 ○実習内容：①店内清掃 ②接客 ③品出し |
| 和歌山県 | かつらぎ町 | 紀の川万葉の里 | 大阪観光大学 | ○実習期間：令和元年8月20日（火）～8月24日（土）【4日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①レジ業務補助 ②段ボールに商品の配置 ③商品の出し方 ④花の小包み |
| | 紀の川市 | 青洲の里 | 大阪観光大学 | ○実習期間：令和元年9月4日（水）～9月8日（日）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①レジ業務補助 ②商品陳列 ③施設内掃除 ④看板作成 |
| 岡山県 | 鏡野町 | 奥津温泉 | 大阪観光大学 | ○実習期間：令和元年9月11日（水）～9月16日（月）【6日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①食堂でバイキング料理を準備する。レジをする。 ②食堂でお皿を洗う。片付ける。 ③売り場でレジをする。ものを袋に入れる。 ④野菜をチェックする。土地もちを作る。 |
| | 西粟倉村 | あわくらんど | 大阪観光大学 | ○実習期間：令和元年8月21日（水）～9月1日（水）【12日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①レストランホールサービス ②レジ業務補助 ③外売店・野菜市接客 ④仕込み・盛り付け |
| 香川県 | 三豊市 | たからだの里さいた | 大阪観光大学 | ○実習期間：令和元年8月13日（火）～8月16日（金）【4日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①温泉施設の準備 ②宿泊施設の準備 ③ビアガーデンの準備 |
| 熊本県 | 阿蘇市 | 阿蘇 | 立教大学 | ○実習期間：令和元年9月5日（木）～9月14日（土）【10日間】 ○実習生：立教大学 学生1名 ○実習内容：①サテライト取材 ②サテライトや販売商品の道の駅公式ブログでの情報発信 ③展示販売業務 ④道の駅「阿蘇」に対するプレゼンテーション |

② 「道の駅」別実習結果概要

道の駅「樹海ロード日高」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月11日（日）～8月26日（月）【14日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①地域の食材を使った店頭で販売する食品の開発、試食、販売（ヤマメの春巻き）
②商品の販売促進のPOPづくり
③町内の観光事業関係者・副町長との対談
④店頭でのレジ打ち

取組状況



< ② の実施状況 >



< ③ の実施状況 >



< ④ の実施状況 >

道の駅「樹海ロード日高」インターンシップ結果概要②



実習成果

・観光地の拠点において、ゲスト側ではなくホスト側として、何ができるか、何をしなければならないかなど、実習を通じて現状を知れたことや、課題点も分析できた。



実習を終えて

- ・道の駅という、地域のいわば観光の拠点となる場所で、どのような人がホストとして働いており、どのような人がゲストとして訪れ、そこでどのような事業が行われているのか、企画・立案の在り方を学ぶことを通し、改めてゲストとホスト、生活と観光のバランス・妥協点をどこに落とし込むのか、難しさを認識した。
- ・日高町の雄大な自然に触れ、改めてまた来たいと思ったことと同時に、北海道の自然や観光、またアイヌも絡めた歴史的な背景と観光との関わりにも非常に興味を持った。

道の駅「樹海ロード日高」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月18日（日）～8月26日（月）【9日間】
- 実習生：専修大学 学生2名
- 実習内容：①地域野菜で試食販売・販売促進
②店頭のPOP作り、トートバックの売り出し
③地域の魅力を調査、地域で活躍する方へのインタビュー
④キャンプを通じて地域の自然体験

取組状況



<キャンプの実施状況>



<自然を体験する沢渡の実施状況>



<地域の魅力を調査 実施状況>

道の駅「樹海ロード日高」インターンシップ結果概要②



実習成果

- - ・地域の食材のそれぞれの良さを地元の方に聞いて、素材の味を生かした料理とレシピを作りました。
 - ・複数種類のトマトの違い、甘さや美味しさを伝えることで、トマトの売り上げを伸ばしました。

・地域野菜で試食販売



・地域の食材を知る



実習を終えて

- ・地元の方もレシピを持ち帰ってもらえて、次の日に「うちで作ったよ」と言われた時はとても嬉しかったです。
- ・自由に販売企画をし、フィードバックの時間なども自分で設け、スケジュール管理やタスク管理など全て自分で行うことで、経営の無知さ、販売促進の難しさを感じました。
- ・キャンプや釣り、川歩き、雲海を見たりなど、たくさんの自然体験をさせてもらえて、北海道の大自然の中で暮らす生活を体感することができました。

実習成果

- トートバックの売り出しでは、POPだけではなく売る場所や、実際に手に取れるトートバックを置くことなどの工夫ができることを知った。
- ・ 自然が豊かな場所で、自然が観光産業の大切な一片を担っていることを実感した。

・ 薪割りの実践



・ 地域で取れた食材を生かした調理



実習を終えて

- ・ 道の駅では地元に住んでいる方から、住んでいない方まで幅広い客層の方々が訪れることを知った。その中で地元で取れた新鮮な野菜であったり、トートバックをはじめとする物の売り方一つで売り上げが変わることから、どのように売るのが大切と学んだ。
- ・ 自然体験する中で、都会では体験することができないような自然の美しさや、自然の中で遊ぶことの重要性というものを身をもって体感した。

実習概要

- 実習期間：令和元年9月14日（土）～9月18日（水）【5日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①レジ横での袋詰め
②レジ
③店内清掃
④品出し

取組状況



<袋詰めの実施状況>



<レジの実施状況>



<品出しの実施状況>

実習成果

- ・休日は1日で1万人弱訪れる道の駅の購買所でレジ作業を行うことで、レジ周辺が混雑してしまうこと、また出口を入り口だと思ってしまうお客様が多発していることに関して、レジのポールの移動や、商品発送のお客様とレジを分けるなどの解決策を提案させていただいた。
- ・人手が足りておらず、なかなかマーケティング等の業務はできなかったが、イベントの企画を担当している方からイベント企画には目的をしっかりとつこと、ターゲットを明確に定めることが大切だということを学んだ。

実習を終えて

- ・実習前は観光客が立ち寄る場所という印象であったが、実際に実習をしていくうちに地元の方が多く利用しているということがとても印象的であった。また地元の方が多く利用しているということがこの場所が愛されている証でもあり、彼らが道の駅米沢にとって大切なリピーター、ファンであると感じた。彼らがこの道の駅を利用する理由としてはスーパーマーケットとは異なる地元のものにこだわり、新鮮な食材がそろっているからと実感でき、このような双方の良好な関係がとても重要であると学んだ。

道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月25日（日）～9月14日（土）【13日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①商品販売・イベント手伝い
②道の駅周辺マップ作成、配布
③野菜のレシピ作成
④敬老会の景品の袋詰め作業、運び出し

取組状況



＜地元の野菜を使った料理づくり＞



＜トマトの農作業の手伝い＞



＜地元の農家さん訪問＞

道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要②



実習成果

①ばんだいまちあるきMAPの作成



②道の駅の野菜を用いたレシピ作成



①道の駅利用者を徒歩圏内の観光スポットやカフェに誘導することを目的にmapを作成

②野菜の直売所には珍しい野菜も多い。野菜の特徴や調理法を知ってもらい、購買につなげることを目的にレシピを作成

実習を終えて

実習前は、道の駅が地域住民のための場でもあるというイメージはほとんどなく、観光客向けの休憩場所、土産物ショップという認識をしていた。道の駅ばんだいの場合、町内にスーパーマーケットがないため、道の駅が町民の買い物場所としての役割を担っていることを知り衝撃を受けた。住民を排除せずに観光客と地域住民双方が利用しやすい道の駅にするという姿勢を今後も大事にしてほしいと思った。

道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月5日（月）～8月9日（金）【5日間】
- 実習生：茨城県立農業大学校 学生2名
- 実習内容：①JA直売所での農産物商品調整作業（袋詰め、値段貼付）
②ハウスでのトマト栽培管理
③トマト摘み取り体験補助
④貨客混載事業における高速バス農産物積込補助

取組状況



<農産物商品調整作業の実施状況>



<トマト栽培管理の実施状況>



<貨客混載事業積込状況>

道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・摘み取り体験を通して、どのように接客すればお客様が喜ばれるかを学んだ。
- ・道の駅「ひたちおおた」がどれだけ地域の農家さんの力になっているかを実感した。
- ・直売所の袋詰め作業等、普段することがない体験ができ裏方の人の大変さが分かった。
- ・高速バスのトランクを活用し、朝採り野菜を首都圏の食品販売店舗等に配送する「貨客混載事業」を学ぶことが出来た。

【道の駅店内の状況】



実習を終えて

- ・水田でのトマト栽培を体験し、同じ市内で米栽培をしている祖父の米規模拡大だけでなく、他作物転換の可能性を感じた。
- ・道の駅での貴重な体験と出会えたお客様や農業関係者との素晴らしい時間を必ず将来に役立てたい。
- ・トマト摘み取り体験は、お客様に多種類のトマトをPRすることで体験の魅力が大きくなると思った。

【摘み取り体験の様子】



道の駅「アグリパークゆめすぎと」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年10月24日（木）～10月28日（月）【5日間】
- 実習生：江戸川大学 学生2名
- 実習内容：①農園就業体験
②花屋さん就業体験
③食堂めぐり亭就業体験
④農産物直売所就業体験

取組状況



<芋掘体験の実施状況>



<花屋直売所の実施状況>



<ゴミ拾いの実施状況>

道の駅「アグリパークゆめすぎと」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 学ぶことができたこと
- ・お客様対応を通じてコミュニケーション能力とマナースキル
- ・道の駅全体の経営方針、組織構成
- ・直売所での商品処理

・体験する学生のお見送り場面



・直売所での販売をする場面



実習を終えて

- ・実習を通じて道の駅全体の業務を経験することができた。直売所などの業務経験の中で、お客様との交流をすることができ、道の駅はコミュニティーの場であることを知るよい経験となった。
- ・今回のインターンシップを経験して、道の駅の全体像が見えた。青果売り場の裏側で野菜を詰めることや農業体験をするなど、他の道の駅では体験できない業務を行った。

道の駅「とみうら枇杷倶楽部」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年7月1日（月）～7月7日（日）【7日間】
- 実習生：江戸川大学 学生1名
- 実習内容：①枇杷の加工
②イチゴ農園の手伝い
③ショップの手伝い
④テイクアウトの手伝い

取組状況



<枇杷の選別の実施状況>



<枇杷のくりぬきの実施状況>



<袋詰めの実施状況>

道の駅「とみうら枇杷倶楽部」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅についての見解が深まり、地域との関係性を学ぶことができた。
- ・サービスを提供するうえでのホスピタリティについても学ぶことができた。

・ソフトクリーム作りの実施状況



・ポケットパンフレットの補充の実施状況



実習を終えて

- ・枇杷の加工やイチゴ農園の手伝いなど、インターンシップでなければ体験することのできないことを多く体験させていただいた。
- ・バスツアーなどでの観光バスの誘致でのターゲット層や旅行プランの考え方、現場とのセッションや難しい点や大変なことなどのいろいろなお話を聞くこともできたので、道の駅を観光にどう組み込んでいくかなどの考えを深めることができた。

道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月20日（火）～8月24日（土曜日）【4日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：① レジ業務補助
② 段ボールに商品の配置
③ 商品の出し方
④ 花の小包み

取組状況



<レジ業務補助の実施状況>



<段ボールに商品の配置の実施状況>



<廃棄の商品の出し方の実施状況>



<花の小包みの実施状況>



<商品の手配の実施状況>

道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 接客経験を教えていただいて、お客様に丁寧に返事したり、気遣ったりするのを教えて頂いた。
- どんな商品が生産者に返さなければいけないか、どんな商品が売れないのか分かるようになった。
- 季節によって果物や野菜は種類が違うので、聞かれたらやさしく説明できるようになった。

・レジの仕込み



・商品陳列



実習を終えて

- ・会社に関係ではなく、地元民は こちらを建てて、植えるものや手作りができるものなどこちらに販売されている。地元産に 果物や野菜、手作りものができてから、こちらに並ばれて、販売できたら利益をもらって、生活を過ごすことを知った。
- ・先輩の接客の仕方を見て、お客様に気さくで丁寧に振る舞うようにした。

道の駅「青洲の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年9月4日（水）～9月8日（日）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①レジ業務補助
②商品陳列
③施設内掃除
④看板作成

取組状況



<レジ業務補助の実施状況>



<商品陳列の実施状況>



<施設内掃除の実施状況>

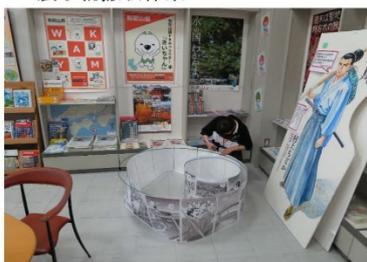
道の駅「青洲の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・華岡青洲という医学界における偉人について深く知れた。
- ・お客様一人一人に気遣いをしながら丁寧な接客ができた。
- ・人だからこそできる温かい対応を知った。

・展示物撤収作業



・パンフレット訂正作業



実習を終えて

- ・道の駅という地域と密着した商品などを売り出す地域と深く関わりのあるところなので、働くうえで地理や特産物を認知しておくべきと思った。
- ・学校で習ったことのある地に実際に足を運び空気を味わうという、学校ではできないことを体験する大切さが分かった。
- ・この実習の経験を今後の就活などに活かしていきたいと思う。

道の駅「奥津温泉」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年9月11日（水）～9月16日（月）【6日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①食堂でバイキング料理を準備する。レジをする。
②食堂でお皿を洗う。片付ける。
③売り場でレジをする。ものを袋に入れる。
④野菜をチェックする。土地もちを作る。

取組状況



<食堂で仕込みの実施状況>



<土地もちを作るの実施状況>



<レジで販売しているの実施状況>

道の駅「奥津温泉」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・お客様に対応する、接客サービスを習った。
- ・仕事でスタッフさんの努力、おもてなしを見習った。



実習を終えて

地元の自然観光、新生ヒラメ。(アマゴ)、土地もちは鏡野町の特徴である。
6日間教えていただいたことは非常に大切なことばかりである。今後、接客の機会があれば学んだことを実践していきたい。道の駅スタッフの方と一緒に働いたことは、私の人生にとって良い経験、忘れられない思い出となった。

道の駅「あわくらんど」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月21日（水）～9月1日（水）【12日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①レストランホールサービス
②レジ業務補助
③外売店・野菜市接客
④仕込み・盛り付け

取組状況



<レストランホールの実施状況>



<レジ業務補助の実施状況>



<仕込み・盛り付けの実施状況>

道の駅「あわくらんど」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・アルバイト先で接客体験や学校で学んだ丁寧な言葉遣いなどを活かして、お客様へのお気遣いができた。
- ・鳥取産の梨の種類が多くて、各種の特徴や甘さなど、お客様に説明できた。

・看板を書く



・漬けものサービスの準備



実習を終えて

- ・大山産に育てたこだわりの材料を選び、季節ごとにおすすめする特別メニューや日替わりの豊かな料理などがあり、レストラン以外は外売店や、野菜市などに山陰産を始め、地元産も並び、食事はもちろん買い物も十分楽しめるので地元も消費できると分かった。
- ・西粟倉村へ来て、食事、買い物だけではなく、静かな自然を見え、露天あわくら温泉に入れ、しかも地域住民と交流もできる、新たな知識も学べる。そこで西粟倉村の良さを発信したいと思っていた。

道の駅「たからだの里さいた」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年8月13日（火）～8月16日（金）【4日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①温泉施設の準備
②宿泊施設の準備
③ビアガーデンの準備

取組状況



<ビアガーデンの準備の実施状況>



<温泉施設の準備の実施状況>

道の駅「たからだの里さいた」インターンシップ結果概要②



実習成果

普段、接客業のアルバイトをしているため、準備や清掃など裏方の仕事をさせていただき改めて準備の重要性を学ぶことができた。
また、働いている方たちはすごくコミュニケーションを大事にされていて、人数は少なくても活気のある職場を作れることを学んだ。



環の湯ホームページより引用

実習を終えて

・宿泊施設の清掃を初めて行い、簡単なようでもすごく細かい作業だということが分かった。
また、次の宿泊客のことも考えて準備をするので、とても周りに気を配って準備をしないといけないことも知ったので、これからの生活に活かしていこうと思いました。

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：令和元年9月5日（木）～9月14日（土）【10日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①サテライト取材
②サテライトや販売商品の道の駅公式ブログでの情報発信
③展示販売業務
④道の駅「阿蘇」に対するプレゼンテーション

取組状況



<サテライト取材の実施状況>



<展示販売業務の説明を受ける実施状況>



<プレゼンテーションの実施状況>

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅と観光振興の関連について学ぶことができた
- ・道の駅における業務内容を知ることができた
- ・道の駅は、地方部における地域活性化の手立てになりうることに気づいた

- ・サテライト(阿蘇神社)の視察



- ・道の駅「阿蘇」外観



実習を終えて

- ・特に地方部の道の駅は地域活性化の手段になると感じたので、地域活性化と道の駅の関係性についてさらに学びを深めていきたい
- ・道の駅における災害時の対策について学びたい
- ・道の駅「阿蘇」以外の場所でも、道の駅が率先して観光振興やイベントを開催しているのか調査してみたいと感じた

(5) 基本協定（ひな形）、各様式等

「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定

一般社団法人全国道の駅連絡会（以下「甲」という。）と〇〇〇大学（以下「乙」という。）は、乙の所属学生（以下「学生」という。）が、「道の駅」において就労体験型実習を行うことについて、下記のとおり協定を締結する。

記

第1 目的

「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、もって、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的として、「道の駅」就労体験型実習（以下、単に「実習」という。）を行う。

第2 就労体験型実習実施に係る基本的役割等

甲は、全国の「道の駅」を対象として、実習の実施内容等を取りまとめ、乙に提示の上、学生を受け入れる「道の駅」の決定を行う。

乙は、甲の提示する実習内容に基づき、派遣する学生を推薦する。また、受入が決定された学生に対し、実習中の遵守事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第3 諸条件

実習の実施にあたって、必要な事項は学生を受け入れる「道の駅」と乙の間で別途定めるものとする。

第4 協議

本協定に定めがない事項又は本協定に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

甲 一般社団法人全国道の駅連絡会会長 南房総市長 石井 裕

乙 〇〇〇大学学長【学部長等でも可】 〇〇 〇〇

(別添1)

実習計画書

| | | |
|---------------|--------|-----|
| 実習実施 「道の駅」 | 道の駅名 | 道の駅 |
| 実 習 生 | 所属大学等名 | |
| | 氏 名 | |
| 「道の駅」 担当者 | 職 名 | |
| | 氏 名 | |
| 実習計画 | 目 的 | |
| | 月 日 | 内 容 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

※大学担当者と「道の駅」担当者の間で協議・検討し、実習内容を決定すること。
※必要に応じて、実習計画書の体裁を変えても良い。

(別添2)

「道の駅」就労体験型実習に関する覚書

道の駅「●●●」(以下「甲」という。)と〇〇〇大学(以下「乙」という。)は、別記「道の駅」就労体験型実習生名簿に記載されている乙の所属学生(以下「学生」という。)が、甲において就労体験型実習(以下「実習」という。)を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第1 実習実施に係る基本的役割等

甲は、別記のとおり学生に実習させることを目的として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。

乙は、学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第2 実習時間、手当等の支給及び事故への対応等(道の駅と大学で協議し内容を決定)

(1) 実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分まで(以下「定時」という。)とし、このうち午後〇時から午後〇時までを休憩時間とする。ただし、〇〇〇にあつては、実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分までとし、このうち午後〇時〇〇分から午後〇時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも実習を行うことがある。

(2) 甲は、実習中、学生に対し、通勤費(自宅又は滞在先より)を原則支給しない。また、手当(日当)、食費及び旅費(滞在先までの往復旅費)は必要に応じて甲の原則負担とする。

(3) 乙は、実習中における関係他者(甲、人物、財物等)に対する法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償できるよう、学生に損害賠償保険等に加入させ、保険等の写しを甲に提出させることとする。

(4) 学生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、学生の自己責任で損害を負担するものとし、また、乙が誠意をもって問題の解決にあたるものとする。

第3 実習中における遵守事項等

(1) 学生は、実習に関する甲の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、甲又は他の「道の駅」の信用を傷つけ、又は不名誉となるような行為を行ってはならない。

(2) 実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に甲に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても2日以上欠務した場合、甲は、実習を打ち切ることができることとする。

(3) 学生は、甲における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、甲の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

(4) 学生は、実習期間終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、甲に提出しなければならない。

(5) 学生は、実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみに発表する場合を除く)には、事前に甲の承認を受けなければならない。

(6) 甲は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。甲は、実習を打ち切った場合は、速やかに乙にその旨を通知する。

第4 誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、甲に対して誓約書（別添3）を提出する。

第5 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

甲 道の駅「●●●」責任者（首長、駅長等） ●●●●

乙 ○○大学・・・・・・ ○○ ○○
（総括責任者）

別 記

「道の駅」就労体験型実習生名簿

| 受入部署名 | 受入開始日 | 受入終了日 | 学部・学科 | 氏 名 |
|-------|-------|-------|-------|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

(別添3)

誓 約 書

道の駅「●●●」責任者 殿

道の駅「●●●」において就労体験型実習を行うに当たり、「道の駅」設置者（自治体等）が定める就業体験実習に関する実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1. 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
2. 実習期間中は「道の駅」職員が遵守すべき法令及び規則を遵守するとともに、実習生としての活動について「道の駅」担当者の指導、監督等に従うこと。
3. 実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。
4. 「道の駅」における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、「道の駅」担当者の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
5. 実習終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、「道の駅」担当者に提出すること。
6. 実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く)には、事前に「道の駅」責任者(駅長等、「道の駅」設置者が設定)の承認を受けること。
7. 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに「道の駅」担当者とその旨を連絡すること。

令和 年 月 日

大 学 等 名 学 生 氏 名 印

(別添4)

就労体験型実習受入結果報告

| | | | | | |
|---|-------------------------|----|----|------------|---|
| 道の駅名 | 道の駅 | | | | |
| 担当者名 | | | | | |
| 実習生名 | | | | | |
| 大学学部名等 | 大学 | 学部 | 学科 | 年 | |
| 期 間 | 月 | 日 | ～ | 月 | 日 |
| 出席状況 | 出席 | 日 | ・ | 欠席 | 日 |
| | 遅刻 | 日 | ・ | 早退 | 日 |
| 評価項目 | | | 評価 | 特記事項 | |
| 実習生の 実習態度 | 規律正しい態度であり、実習中支障がなかった | | | A・B C・D | |
| | 業務内容の的確な理解ができていた | | | A・B C・D | |
| | 業務内容に適応した行動であった | | | A・B C・D | |
| | 目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた | | | A・B C・D | |
| 就労体験型実習で得られた成果（アウトプット） | | | | | |
| 1. 顕著な成果が得られた 2. 成果が得られた 3. あまり成果がなかった | | | | | |
| 就労体験型実習の波及効果・良い影響（例 職場が明るくなった、職員の IT スキル向上 等） | | | | | |
| 今後の改善点 | | | | | |
| その他（感想・良かった点等自由にご記入ください。） | | | | | |

評価：A（優れている） B（やや優れている） C（普通） D（劣っている）の4段階

3. 令和元年度 連携企画型実習結果

(1) 連携企画型実習状況

令和元年度においては、全国 30 箇所の「道の駅」（島根県西部の 1 地域含む）と 25 大学との間で、連携企画型実習が実施されました。

表-5 令和元年度 連携企画型実習状況一覧

| 道の駅名 | 都道府県 | 大学名 | 名 | 都道府県 | 大学名 |
|------------|------|----------|--|------|----------|
| オスコイ!かもえない | 北海道 | 星槎道都大学 | 女神の里たてしな | 長野県 | 長野大学 |
| 常陸大宮 | 茨城県 | 茨城大学 | めぐみ白山 | 石川県 | 金沢星稜大学 |
| しもつま | 茨城県 | 江戸川大学 | 賤母 | 岐阜県 | 名古屋外国語大学 |
| もてぎ | 栃木県 | 跡見学園女子大学 | どんぐりの里いなぶ | 愛知県 | 愛知学泉大学 |
| あぐりーむ昭和 | 群馬県 | 前橋工科大学 | 竜王かがみの里 | 滋賀県 | 立命館大学 |
| 果樹公園あしがくぼ | 埼玉県 | 淑徳大学 | 竜王かがみの里 | 滋賀県 | 滋賀短期大学 |
| おがわまち | 埼玉県 | 城西大学 | アグリパーク竜王 | 滋賀県 | 滋賀短期大学 |
| オライはすぬま | 千葉県 | 千葉商科大学 | 京丹波 味夢の里 | 京都府 | 平安女学院大学 |
| 鴨川オーシャンパーク | 千葉県 | 城西国際大学 | 京丹波町道の駅連絡協議会 (丹波マーケス、京丹波味夢の里、瑞穂の里・さらびき、和) | 京都府 | 大阪大学 |
| しょうなん | 千葉県 | 江戸川大学 | 島根県西部地域の道の駅 (全12駅中、令和元年度4駅) | 島根県 | 島根県立大学 |
| いちかわ | 千葉県 | 江戸川大学 | 風早の郷風和里 | 愛媛県 | 愛媛大学 |
| 発酵の里こうざき | 千葉県 | 日本大学 | みえ | 大分県 | 別府大学 |
| 富士川 | 山梨県 | 拓殖大学 | つの | 宮崎県 | 宮崎大学 |
| 中条 | 長野県 | 松本大学 | ぎのざ | 沖縄県 | 名桜大学 |
| 上田道と川の駅 | 長野県 | 長野大学 | | | |

※1 上記大学数、道の駅数は重複数を除いた合計である。

※2 京丹波町道の駅連絡協議会は4駅とするが、京丹波味夢の里は重複しているため※1に基づき合計数は1減としている。

※3 島根県西部地域の道の駅は、ひとつの地域としてとらえ1箇所としている。

(2) 令和元年度 連携企画型実習結果概要

道の駅「オスコイ！かもえない」と星槎道都大学との連携①



道の駅「オスコイ！かもえない」と星槎道都大学の学生が連携して、道の駅の施設デザインや、創作作品の展示、作品の販売など様々な取り組みを実施しています。

■大学と「道の駅」の連携

- ・ 神恵内村と星槎道都大学は、H28年度より包括連携協定を締結

■連携目的

- ・ 「神恵内村」というフィールドでの企画の立案・実施を通して、星槎道都大学の知的財産や学生の活力を活用し、地域の活性化や学生の人材育成を図る。

■連携内容

- ①: 神恵内村住民との交流(アートキャンプ)
- ②: 神恵内村を題材に創作活動を実施
- ③: 作品を道の駅で展示・販売

■包括連携協定模式図



■連携内容のフォローアップ

- ・ 大学と神恵内村で検証委員会を設置
- ・ 実施している連携を検証するスキームとなっている



【私立星槎道都大学】

星槎道都大学は、必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げることのできる豊かな教養と専門知識および技術を身につけた課題探究能力および創造力に富んだ有為な人材を育成します。また、星槎の三つの約束「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」のもと、共生社会の実現に資する「共感理解教育」を実践します。



【道の駅「オスコイ！かもえない」】

日本海に面した国道229号沿いにある、山と海に囲まれた自然あふれる道の駅です。施設内には、神恵内産で獲れた魚介類を中心に、水産加工品の販売を行っており、特に、水槽に入った活ホタテは活きがいいのが売りで、大変好評を博しています。



道の駅「オスコイ！かもえない」と星槎道都大学との連携②



取組事例: 道の駅の施設デザイン

- ・ 建築学部の学生が道の駅の視察を行い、施設デザインを検討
- ・ 検討内容を反映して展示棚やベンチなどを設置

<道の駅視察状況>



<検討会の実施>



<施設への導入>



取組事例: 学生作品の展示販売



取組事例: 神恵内村で行ったアートキャンプで作成した作品を道の駅での展示

- ・ 学生が神恵内村に訪れて、住民との交流や村に関連のあるものを題材にした作品を制作するアートキャンプを実施
- ・ 神恵内村にある流木を使った「流木アート」や漁業にちなんだ大漁旗をモチーフにした切り絵などを作成し道の駅に展示



▲アートキャンプ参加者



▲流木アート(親子熊)



▲流木アート(鹿・子犬・犬)



▲大漁旗をモチーフにした作品

道の駅「常陸大宮」と茨城大学との連携①



道の駅「常陸大宮」と茨城大学（人文社会科学部）の学生が連携し、かわプラザの「たけあかり」イベントを核とした自然災害からの復興プロジェクトに取り組みます。

これまでの「たけあかり」と令和元年の「たけあかり」を取り巻く状況

| | |
|---|--|
| <p>【これまでの開催状況】</p> <p>平成28年度・・・第1回たけあかり開催。約1200個のたけあかりを作成。</p> <p>平成29年度・・・第2回たけあかり開催。灯りの数を約2000個にして規模を拡大。</p> <p>平成30年度・・・第3回たけあかり開催。新たな連携体制の「誕生」、地域資源への「未来への可能性」をキーワードに「かぐや姫」をテーマとしたライトアップ。</p> | <p>【令和元年】</p> <p style="text-align: right;">台風19号襲来により中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイメントの実施（地元子供会と、竹あかりデザイン作成・スタードーム天幕作成） ・ライトアップイベントの準備（3300個の灯り、竹ツリー、竹提灯や、新モニュメントを準備） ・新モニュメントの企画 new ドーム型と円錐型のモニュメントを新規で企画。地元の方と協力して設計、試作を行った。 ・竹看板製作 new イベントのストーリー性を強める竹看板による案内板を作成。順路誘導を狙った。 |
| <p>【茨城大学（所在地：茨城県）】</p> <p>人文地理学小原ゼミでは、持続的な地域システムの構築という視点から、ツーリズム（観光・交流）による地域活性化をテーマに研究を行っている。</p> <p>また、常陸大宮市や常陸太田市、笠間市、高萩市などの地域連携活動を通して、地域活性化についての知識をさらに深める活動を行っている。</p> | <p>【道の駅「常陸大宮」】</p> <p>茨城県内の12か所目の道の駅として、2016年3月に開業した。重点「道の駅」にも登録されており、洋野菜を使ったレストランや体験農園がある。</p> <p>道の駅沿いには久慈川が流れていて、川を見ながら休憩できる特徴がある。</p> <p>道の駅を拠点として地域活性化に取り組む市民グループなどが育ち始めている。</p>  |

道の駅「常陸大宮」と茨城大学との連携②



令和元年度 取り組み内容：「たけあかり」を核とした自然災害からの復興

連携の展望

今回の台風被害と竹林の働きを地域に周知することで、久慈川流域の竹林に対する価値の共感を創出する。

→地域の誇りに

道の駅常陸大宮が川沿いの立地であることを活かし、霞堤や水害防備保安林など久慈川の昔からの減災の取り組みを発信していく。

→防災意識の促進で地域に貢献提 言



取り組み概要

- 災害時の拠点として道の駅に期待される機能
- 事前段階 — 災害予測情報の発信機能
- 被災直後段階 — 災害情報の発信機能&災害対応拠点機能
- 復興段階 — 地域を元気づける機能

防災教育機能（被害の記録・防災情報の発信）を持つことによって、災害時の拠点として地域を支える力を高めることができるのではないかと



道の駅「しもつま」と江戸川大学との連携①



道の駅「しもつま」と江戸川大学（社会学部）の学生が連携し、さんむ田んぼアートプロジェクトをきっかけに道の駅に足を運んでもらい、観光拠点としての役割に繋げるとともに周辺地域の地域活性化を目的とするプロジェクトに取り組みます。

現在の道の駅の特徴・課題

| | |
|--|--|
| <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年リニューアルオープン ・展望台がある ・名産の「梨」を使った商品がたくさんラインアップ | <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知名度のある名産・名物がない ・展望台の活用・展望台までの階段 |
| <p>【江戸川大学（所在地：東京都）】 「道の駅しもつま」は納豆工房や展望台を有しているが、長距離運転者の短時間利用が中心である。 そこで提案者は地域住民の来訪促進を目的に、地域の子供たちにより展望台の窓に装飾を施すステンドグラス制作イベントの企画を考案した。家族連れによる賑わい創出を狙いとした本企画は、近隣出身で地域事情をよく知る提案者ならではの発想である。</p> | <p>【道の駅「しもつま」】 農産直売では、下妻市農産物出荷組合の新鮮で安心安全な野菜や果物等を販売しております。特産の「梨」「新米」が人気です。下妻市食と農を考える女性の会”ウィマム” 製品取扱店舗です。 また、全国でも珍しい納豆工場を併設しており、下妻産大豆を使用したしもつま納豆「福よ来い」はご贈答、ご家庭の食卓で喜ばれています。製造見学も可能です。</p>  |

道の駅「しもつま」と江戸川大学との連携②



令和元年度 取組み内容：ステンドグラスで活性化

取組み概要

ステンドグラスで活性化

展望台に続く階段の窓を子供たちによってステンドグラスのように装飾する

⇒セロファンを使用

⇒子どもの自由な発想

⇒季節により作成するイベントを

ターゲットは「親子」

・人がステンドグラスを見に来る

・親が子どもの作品を見に来る

来客数が増加 ↑ ↑

道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携（5年目）①



「道の駅」を舞台にした定住移住対策！「道の駅もてぎ」を核にした関係人口と定住・移住者拡大プロジェクトに取り組みます。

本企画のプラン概要

今年度の国土交通省が「道の駅の第3ステージ」として提唱している次世代型道の駅の「地方創生・観光を加速する拠点」というテーマに沿って、道の駅を舞台にした定住移住策を大胆に提案。
先進的な定住移住政策を打ち出している全国の地方自治体の定住移住策を徹底調査の上、茂木町の現状の政策と比較検討を行いながら、「道の駅もてぎ」および茂木町役所と共同で「道の駅もてぎを核とした」定住移住促進大作戦を企画した。

提案内容

「道の駅もてぎ」の観光人口の拡大戦略
「道の駅もてぎ」に来る一見さん

STEP1

観光による「道の駅もてぎ」に来訪するお客様の数を徹底的に増やし茂木町のすばらしさをアピールする

「道の駅もてぎ」の関係人口の拡大戦略
「道の駅もてぎ」に来るお得意さん

STEP2

訪れた方の中から「関係人口」のファンを拡大し道の駅ファンクラブ「すきだっペクラブ」への加盟促進！お取り寄せの商品のギフトの促進、ふるさと納税へと繋げていく

茂木町の定住人口の拡大

STEP3

最終的に、茂木町のコアなファンを育て上げて定住移住の支援策を拡充しながら、地域全体として受け入れ態勢を構築する。最終的にふるさと納税の納税者の2%の37名を茂木町の定住移住者とするを目標とする。

■テーマ

道の駅「もてぎ」を舞台にした定住移住対策

- ①基本となる観光人口の拡大
- ②「道の駅もてぎ」をベースにした「関係人口の拡大」
- ③移住者確保

【跡見学園女子大学】

1875（明治8）年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教養を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としています。創立当初より社会での実践を重視する教育、「教育実践」を行っており、この「教育実践」の一つであるインターンシップ（就業体験）において、参加学生数と参加率で全国女子大学第1位の成果をあげています。
連携に参画している「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、平成27年度から新しく開設されました。観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」で平成29・30年度、2年連続でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地域づくりにおいて多数の実績があります。

【道の駅「もてぎ」】

茂木町は、里山や棚田に代表される豊かな自然に囲まれながら、国際的サーキット「ツインリンク」も擁するまち。「道の駅もてぎ」（所在地：栃木県芳賀郡茂木町）は、栃木県内第1号の道の駅として平成8年にオープンして以来、新たなチャレンジで発展し続ける道の駅界の“トッフリーダー”的存在です。
素材を厳選した人気の手作りアイスに茂木産の新鮮野菜、特産の「ゆず」や「えごま」を使ったオリジナル商品の数々は要チェックです。焼きだて「バウムクーヘン」に、昨年、第1回道一グランプリでグランプリを受賞した話題の「ゆず塩らへめん」といつも話題に事欠かない駅です。



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携（5年目）②



令和元年度 ①基本となる観光人口の拡大

取組み概要

①「道の駅もてぎ」を発着地点とした着地型ツアーの造成と販売

茂木町の生活文化を色濃く体験できる着地型ミニツアーの造成。例えば道の駅もてぎに車を止め、町内をレンタサイクルでまわり、茂木町に点在している観光資源を楽しんでもらう！農家の方との交流や郷土料理の料理教室の体験なども組み込み、地元の方とのコミュニケーションも取ってもらい、より深く茂木町の魅力をお届けする。



②移住相談ブースを設置！

移住定住ブースを設置し、観光客に茂木町の魅力を知ってもらい、移住目的の方のみならず、観光客にも興味を持ってもらい、茂木町のすばらしさをアピールし茂木町のファン（関係人口のステップ）へとつなげていく茂木町のファンになってもらうことからはじめる。



③「ぶらりもてぎ満喫ツアー」

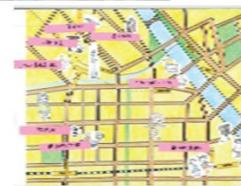
私たち跡見学園女子大学の学生たちが実際にお客様をご案内し、フィールドワークを行い魅力的だと感じたスポットをマップに落とし込み紹介する。

①茂木町の観光人口の拡大

②茂木町の関係人口の拡大へのステップ

③茂木町の観光人口の拡大

につなげることができる



令和元年度 ②「道の駅もてぎ」をベースにした「関係人口の拡大」
③ 移住者確保

取組み概要

①会員限定！茂木町でしか味わえない特別体験！

茂木町にある「真岡鉄道のSL」や「ツインリンクもてぎ」などのコアなファンを持つ観光コンテンツを使い、マニア向けコンテンツを作成しファンの増加を促進！

②新たな発信方法の確立～Youtubeなどの活用～

道の駅もてぎを中心に茂木町の魅力をより多くの人に知ってもらうためにSNSを利用して、幅広い世代に向け道の駅もてぎをPRしていきます！

③地域住民のコミュニティの場を拡充

移住を推進するために最も大切な移住してきた人たちと地域住民のコミュニティを作る場を拡充して温かくお迎えする場を「道の駅」で作っていくこと、そしてそれをPRしていくことが大切。

定住移住者に対して徹底的なコンサルティングを行い定住者の要望をケーススタディ的に解決していく柔軟な誘致活動を行う。



道の駅「あぐりーむ昭和」と前橋工科大学との連携①



道の駅「あぐりーむ昭和」と前橋工科大学（工学部社会環境工学科）の学生が連携し、多主体ネットワークの構築と様々な施策を通して人を育て仕事を作る「むら・ひと・しごと」の拠点作りに取り組みます。

道の駅の調査内容と現況の課題

| 【調査】 | 【課題】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------|----|----|-----------------------------|------|----|-----------|-------|----|----------------|---------------|----|-----------------------------------|----------------|-----|------------|---------|--|
| <p>①基礎機能調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 看板の多言語表記 観光案内所のわかりにくさ 不整頓な掲示 <p>②施設機能</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>課題</th> <th>施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>休憩</td> <td>・バリアフリーの導入 ・殺風景な土地利用の見直し</td> <td>足湯・丘</td> </tr> <tr> <td>情報</td> <td>・情報の多言語表記</td> <td>観光案内所</td> </tr> <tr> <td>伝達</td> <td>・見にくく、わかりにくい看板</td> <td>ことぶき亭・あぐりーむ農園</td> </tr> <tr> <td>交流</td> <td>・明るく利用しやすい空間に ・スペースの有効活用・遊具の充実</td> <td>観光案内所・足湯 中庭</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>・解体し施設との統合</td> <td>あぐりーむ販売</td> </tr> </tbody> </table> | 機能 | 課題 | 施設 | 休憩 | ・バリアフリーの導入 ・殺風景な土地利用の見直し | 足湯・丘 | 情報 | ・情報の多言語表記 | 観光案内所 | 伝達 | ・見にくく、わかりにくい看板 | ことぶき亭・あぐりーむ農園 | 交流 | ・明るく利用しやすい空間に ・スペースの有効活用・遊具の充実 | 観光案内所・足湯 中庭 | その他 | ・解体し施設との統合 | あぐりーむ販売 | <p>①遠方からの顧客・村内在住の高齢者にも対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫から加工までの農業体験 配送サービスや介護サービスの実施 滞在機能の充実 <p>②若手農家・農業高校生を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度の廃止 利根実業高校の就職先窓口開設 <p>③防災に強く、地域に優しい</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災機能を備えた新施設の建設 野菜の加工施設 SNSでの魅力発信 |
| 機能 | 課題 | 施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休憩 | ・バリアフリーの導入 ・殺風景な土地利用の見直し | 足湯・丘 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報 | ・情報の多言語表記 | 観光案内所 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伝達 | ・見にくく、わかりにくい看板 | ことぶき亭・あぐりーむ農園 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 交流 | ・明るく利用しやすい空間に ・スペースの有効活用・遊具の充実 | 観光案内所・足湯 中庭 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | ・解体し施設との統合 | あぐりーむ販売 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

【前橋工科大学（所在地：千葉県鴨川市）】
前橋工科大学は、群馬県道路管理課の「道の駅」魅力アップワーキングと連携をとり、国・県・村・道の駅（あぐりーむ昭和）の協力を得ながら、学生が独自に3つのプロジェクトを提案しました。
「お届け便・お迎え便」については、パイロットプロジェクトとして2020年6月に社会実験を実施予定です。
「むら」「ひと」「しごと」の拠点になるよう、継続して活動します。

【道の駅「あぐりーむ昭和」】
あぐりーむ昭和は、アグリカルチャー（農業）＋ドリーム（夢）農業とそこに集まる人々の夢が広がるように願いを込めた名前です。
昭和村の玄関口にあり、新鮮野菜を販売する農作物直売所、やさしい王国昭和村の食材を使用したレストランや物産館などがあります。

道の駅「あぐりーむ昭和」と前橋工科大学との連携②



令和元年度 取組み内容：「多主体ネットワーク」による取り組み

取組み概要

①お届け便・お迎え便（パイロットプロジェクト）の提案

民間企業と連携し、道の駅の農産物を、首都圏や県内都市部にお届けするシステムを提案。販売先は、首都圏や県内都市部の団地、自治会、企業店舗など。ご希望のお客様には、道の駅にご招待。

②農家レストラン・野菜ラボの提案

現在テナントである農家レストランを道の駅直営化し、利用者の要望に即応できるように変更。拡張予定の駐車場スペースを活用し、「野菜ラボ」を整備する。近隣の農業系高校と連携し、加工品開発、新メニューの開発を行う教育・研究拠点とする。

③滞在拠点・防災センター化

拡張予定の駐車場にオートキャンプ機能を整備する。また、村内の防災センター（避難、食料提供）にする。



道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携①



道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学（経営学部観光経営学科）の学生が連携し、果樹公園村の高齢化・消滅への対策と、地域のハイキング路をすべて道の駅へ誘導し、下山道に町道を使うように提案します。

現在の道の駅の特徴と課題

| | | |
|---|---|---|
| <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2004年に開業。 鉄道の駅と観光農園村に隣接している道の駅 谷間の狭隘地につくられており、これ以上の拡張は難しい。 秩父盆地の入り口に当たり、自動車行楽客が必ず休憩を取りたくなるロケーション。 マイカー行楽客、オートバイライダー、サイクリスト、登山者、果樹公園村利用者、道の駅施設・イベント利用者が利用する。 川遊び、川辺カフェ、楽焼き、そば打ち、展示場等、多目的の道の駅。多目的・多機能の道の駅。 デザイン・環境・店舗商品が秀逸。観光デスティネーションにもなる。 |  | <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 芦ヶ久保駅と隣接する道の駅は、ハイキング路起点として捉えられているが、道の駅と芦ヶ久保駅を最終到達点として歩く歩行者は少ない？ 「横瀬地区」と道の駅のある「あしがくぼ地区」の連携が弱い。（昔は別の村。） 地域の歴史が残っていない。  |
| <p>【淑徳大学（所在地：東京都）】</p> <p>淑徳大学（経営学部所在地：埼玉県入間郡三芳町）は、社会福祉の増進と教育による人間開発・社会開発に貢献する人材の育成を目的とした大学で、2015年に創立50周年を迎えました。</p> <p>経営学部は体験型・実践型学習を充実させていることが特徴です。講義での知識の獲得だけでなく、企業・自治体の協力を得て、学んだ知識や論理を確認・定着・発展させる取り組みを積極的に実施しています。このような取り組みにより、学生は広い視野を持ち、分析・解決する力を身につけます。</p> | <p>【道の駅「果樹公園あしがくぼ」】</p> <p>当道の駅は、秩父の山々の深い緑、横瀬川の清流、澄んだ空気と四季折々の花と果樹といった豊かな自然に囲まれています。駅内施設には、農産物直売所、食堂、体験交流施設などがあり、屋外には四季折々の花を楽しめる交流広場があります。</p> <p>施設のすぐ脇を流れる横瀬川の河原も散策でき、水に親しみ、ゆっくり体を休めるなど、ドライブ途中のリフレッシュには最適です。</p> <p>花、緑、風、水といった自然のすばらしさを体験できる道の駅です。</p>  | |

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携②



令和元年度 取組み内容：果樹公園村の高齢化・消滅の危機への対策の取り組み

提 案

＜かつて西武鉄道が農家にしてきた役割を道の駅が代替できないか？＞

・高齢化・後継者不足を踏まえ、必要な農家には、新たに雇用する道の駅の専門の職員が農作業（または農園運営）を支援し農園と景観・環境を維持、農家は土地と畑を賃貸、農作物の売り上げの一部は農家に還元。

＜果樹公園村存続の長期的展望 外部との関係性を構築できないか？＞

- ・農業高校に実習園として使用してもらい、農家への若者の就農につなげる。ノウハウが集積している。
- ・新規参入の農業経営者に農地を安く賃貸し、農家の農業指導を行う。
- ・町による移住支援。芦ヶ久保地区にも移住促進対策を！

＜その他＞

- ・ますますひどくなる獣害の一斉駆除を、国・県・町が猟師を経費の面で支援する。

＜横瀬地区と芦ヶ久保地区の連携＞

- ・2つの地区を接続し、1日で楽に歩ける歩行コース設定
→修景を行い、安全な山道の整備、途中のカフェ・農村レストランを関連付け、周遊歩行コースを作る。

＜プロモーション＞

- ・多様な媒体で具体的体験紹介、食レポ記事等の発信→「歩きやすい里山」の総合的広報プロデュースする。
- ・並走する林道・町道の存在の広報 →芦ヶ久保駅・道の駅に安全に下山できるコースの提唱、出版社等に売り込む。

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携①



道の駅「おがわまち」と城西大学（現代政策学部庭田ゼミナール）の学生が連携して、道の駅を拠点とした町の新たな魅力の創出による観光振興を目指し、地域資源を活用した小川町オリジナルマップの開発と、映像作品を通じた地域プロモーションを企画・立案します。

①小川町の実地調査

- ・現地調査
- ・地元の特化したマップがない
- ・プロモーションが弱い



- ・自分たちでつくろう
- ・コアなファンを狙おう
- ・動画を使用しよう

②小川町まっぷ「おがわんだあ」作成



②小川町PV作成



小川町の活性化

【埼玉県 小川町】

ユネスコ「細川紙」の和紙のふるさと

1300年も昔からこの地で和紙が漉かれる。その内の「細川紙」の手漉き和紙の技術が、平成26年ユネスコ無形文化遺産に登録。

豊かな自然と共存する有機農業

本来の生き物同士の共存・共生を尊重することで、化学肥料や農薬を使わない有機農業。いち早くそれを実践し、いまや世界中から持続可能な有機農業の研修に訪れる。

和紙をふんだんに使った七夕まつり

昭和24年から戦後の和紙の復興を願って始まった小川町七夕まつり。艶やかな竹飾りが駅前通りを彩る。夜には花火大会も催され、小川町の夏の風物詩になっている。



【城西大学】城西大学（所在地：埼玉県坂戸市および東京都千代田区）は、大蔵大臣や通産大臣を歴任した水田三喜男によって「学問による人間形成」を理念に1965年に建学されました。現代政策学部（所在地：坂戸市）は、政策学研究とキャリア教育により、問題解決能力を備えた人材の育成を目指しています。道の駅「おがわまち」との連携プロジェクトに参加する庭田ゼミナールは、「地域活性化政策～まちづくり／観光・交通の研究と実践」をテーマに、理論と実行力を兼ね備えた地域の担い手を育てるため、アクティブラーニングを用いた問題解決型授業を行っています。

【道の駅「おがわまち」】平成5年4月に埼玉県2番目として登録された道の駅。武蔵の小京都と称される小川盆地のやや東側にあり、周囲に山々を抱え、豊かな瀬川の流れを望み、手漉き和紙工房が多く集中する、まさに小川町の自然歴史文化の中心に位置します。道の駅内の「埼玉伝統工芸会館」はその主要施設で、県内の伝統的手工芸品の20産地30品目を一堂に会した展示施設です。特に、ユネスコに登録された技術である手漉き和紙の実演体験に多くのお客様が訪れています。また、地元の有機野菜等の直売所も設置され、地粉を使ったうどんやそばなどが食べられるレストランもあります。

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携②



令和元年度 取組み内容①：地場産品マップ「おがわんだあ」の作成

ブランド開発

～小川町ブランドの認証と販売店マップの作成



地場産品マップ作製のため、現地調査に行きマップに掲載する店舗を調査した。

原料である一次産業品（採れたもの）、製造等の二次産業品以降のものに分け、店舗をピックアップ。マップへの掲載店舗を決定。

完成後は、町内への配布、ステッカー等の作成と配布を予定している。

令和元年度 取組み内容②：動画で観光プロモーション～小川町ファン/マニア獲得～

ショートムービー製作



観光客を呼び込むため、「ディープツーリズム」をテーマにし、短編の動画を制作。昨今需要の高まるYoutubeで配信することで、観光客のマニア心に訴求するとともに、外国人観光客にゴールデンルート以外の日本観光の選択肢を提示する。

道の駅「オライはすぬま」と千葉商科大学との連携①



道の駅「オライはすぬま」と千葉商科大学（人間社会学部）の学生が連携し、さんむ田んぼアートプロジェクトをきっかけに道の駅に足を運んでもらい、観光拠点としての役割に繋げるとともに周辺地域の地域活性化を目的とするプロジェクトに取り組みます。

田んぼアートをきっかけに道の駅を観光拠点にするべく、様々なイベントを企画・提案

①田植えイベント

・田植え結婚式



・BBQ・キッチンカー出店



②田んぼ鑑賞祭

・塗り絵制作



・案山子コンテスト開催



・記念さつぷり発売



③稲刈りイベント

・地元酒造のオリジナルラベル日本酒の提供



【千葉商科大学（所在地：千葉県市川市）】

学生が道の駅や地元住民と連携をしながら企画立案し、準備から運営まで実施した田んぼアート。

毎週現地に足を運び、地域を盛り上げるために活動を行ってきました。この活動から道の駅の集客アップに繋がるなどの成果も生まれました。

そして学生自身も様々な人と関わることで、多様性の理解や地域共生社会の大切さについても学んでいます。

【道の駅「オライはすぬま」】

「道の駅オライはすぬま」は、成田空港と九十九里海岸を結ぶにはわ道路沿いに位置し、蓮沼海浜公園、九十九里海岸の観光スポットへお越しの皆様にとついで頂く施設です。

オライはすぬまの「オライ」とは、この地方の方言であり「我が家」を示す言葉です。都市と農村の地域間交流がいつそう進むと共に、人々の往来する場所となることを願ってオライはすぬまと名付けられました。

道の駅「オライはすぬま」と千葉商科大学との連携②



令和元年度 取組み内容：さんむ田んぼアートプロジェクト

取組み概要

①田植えイベント

【田植え結婚式】

田植えに合わせて田植え結婚式を開催。駅長が立会人となり、地域住民もみんなで祝福。

【BBQ・キッチンカー出店】

昼食は道の駅で販売している材料でBBQ。

地元のキッチンカー（移動販売店）に出店を依頼。



道の駅の来客者数が、昨年同時期に比べて、「約25%UP↑」

学生（80名）がシフトを組み、毎週道の駅に足を運んで作業を実施し、様々な方の協力を得ながら、学生がイベントの企画立案から運営までを実施した。

⇒関係人口の拡大、社会人基礎力の向上

様々なメディア（新聞や雑誌）に取り上げられた。

⇒山武市のイメージアップ、地域活性化



令和元年度 取組み内容：さんぼ田んぼアートプロジェクト

取組み概要

②田んぼ鑑賞祭

【塗り絵制作】
田んぼアートを盛り上げるために、地域の幼稚園、保育園、障害者福祉施設の子も達に塗り絵を制作してもらい掲示した。

【案山子コンテスト開催】
地域の方にユニークなかかしを制作してもらった。

【記念きっぷ発売】
道の駅「記念きっぷ」（硬券切符）を発売。

地域活性化を目的として田んぼアートを実施していることをPRした。

③いろいろ稲刈り

【稲刈りイベント】
地元酒造のオリジナルラベル日本酒の提供

千葉県は台風15・19号で甚大な被害を受けた。
⇒**蓮沼地区をはじめ、道の駅も被害を受けたがこな時だからこそ**

地域住民たちの結びつきが強くなった。
⇒**地域共生社会**

世代や地域、国籍の垣根を超えた交流ができた。
⇒**多様性の理解**

田んぼアートは、近年重視されている「SDGs」関連していることを発見した。
⇒**SDGsについて考えるきっかけになった。**



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携①



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、「道の駅」の特徴である休憩機能・情報発信機能・地域連携機能を強化し、道の駅「鴨川オーシャンパーク」及び鴨川市・南房総地域の観光振興に寄与することを目的とするプロジェクトに取り組みます。

3チームに分け、各々の目的にあった調査を行い、調査を基にした企画の立案と運営を行いました。

| | | |
|---|---|--|
| <p>①イベント班</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナルフォトフレーム作りイベント  <p>・ポスター展示</p>  | <p>②施設強化班</p> <ul style="list-style-type: none"> エアーマット設置 書籍閲覧スペース、タピオカドリンク販売施設設置    | <p>③情報発信班</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスターとポストカードの制作 カフェマップ制作   |
|---|---|--|

| | | |
|--|--|---|
| <p>【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】</p> <p>城西国際大学は、ウェルネスツーリズムを目指した実践的な観光学を学びます。特に親身な教育、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての実務に強い教育が特色です。</p> <p>※ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との協働で生み出される人と地球にやさしい観光」のことです。</p> | <p>ウェルネスツーリズム</p>  | <p>【道の駅「鴨川オーシャンパーク」】</p> <p>鴨川オーシャンパークは、文字通り豊かな自然や温暖な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に憩いとやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地場産業や文化、芸術分野との連携を図ることで、地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。</p>  |
|--|--|---|

道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携②



令和元年度 取組み内容：最大の資源である「海」を最大限に利用した地域活性化

取組み概要

最大の資源である「海」を活用した地域活性化

【①オリジナルフォトフレーム作りイベント開催】

イベント効果による道の駅への集客と来訪者の滞在時間の延長を目的とし、鴨川の三ヶ所の海岸（前原海岸、太海海岸、江見海岸）で拾い集めた貝殻を使ったオリジナルフォトフレーム作りを行った。

【②ポスター展示開催】

地元の海や海岸に関する魅力（海のみしさ、夕焼けや朝焼けといった空のみしさ、海洋生物の多様性など）や現状の海や海岸（太海海岸、前原海岸、東条海岸）の問題点について紹介するためのポスター展示を行った。

【③地域活性化プロジェクト〈千倉朝市〉】

千倉漁港で行毎月2回開かれている千倉朝市でも、オリジナルフォトフレーム作りを中心としたイベント「ぶらっと朝市」を行ったり、地域のバンド演奏や子供達のダンスチーム演目、南房総エリア出身のお笑い芸人による舞台の企画運営なども行った。

新たなイベントを創出することで、親子連れの近隣住民の方々他、県外からの団体客もイベントに参加して楽しんでくれました。

また、イベントの運営だけでなく、地域の方々の出店で買い物をしたり、イートインスペースで食事をしたりなど、自分たちも積極的にイベントに参加し、地域の皆さんと積極的に交流ができました。



●オリジナルフォトフレーム作り



●ポスター展示



●朝市

令和元年度 取組み内容：最大の資源である「海」を最大限に利用した地域活性化

取組み概要

既存施設の有効活用と鴨川市内の回遊性を高める施策

【①エアーマット設置】

来訪者の滞在時間を延長し、当該「道の駅」の魅力と位置付けている「海」と「花」を体感してもらうために、海岸や花園に隣接している鴨川オーシャンパークの中庭にエアーマットを設置した。

【②書籍閲覧スペース、タピオカドリンク販売施設設置】

エアーマットを設置した場所に、道の駅周辺の観光情報（景色、食事、風土・歴史など）を掲載した書籍閲覧スペースを設置した。

【③ポスターとポストカードの制作】

本プロジェクトで制作したInstagramと連動した鴨川市のカフェを宣伝するためのポスターとポストカードの制作を行った。

【④SNS(Instagram)と連動した紙のカフェマップ制作】

紙のカフェマップにQRコードを添付したSNS(Instagram)と連動した紙のカフェマップ制作を行った

期待していた成人だけでなく、親子連れとくに子供たちがリラックススペースを利用し楽しんでくれた。



●ポスターとポストカードの制作



●エアーマット設置



●書籍閲覧スペース、タピオカドリンク販売施設設置



●カフェマップ制作

道の駅「しょうなん」と江戸川大学との連携①



道の駅「しょうなん」と江戸川大学（社会学部）の学生が連携し、しょうなんオリジナリティを組み込んだ小型販売型による情報発信及び観光再生プロジェクトに取り組みます。

道の駅の特徴と現況の課題

| | |
|---|--|
| <p>【特徴】</p> <p>①ゲートウェイ型道の駅 ・手賀沼周辺地域のエントランス</p> <p>②都市部と農村部を繋ぐエントランスパーク ・「集客」「販売」「地域の情報発信」</p> <p>③農産物直売所の拡大</p> <p>④ガレリア(イベントスペース)新設</p> | <p>【課題】</p> <p>①高齢化 →コミュニティ活動の低下</p> <p>②人口減少 →管理されない空間の増加</p> <p>③柏市全体にとって →景観の損失 →歴史・文化の継承の危機</p> |
| <p>【江戸川大学（所在地：東京都）】 江戸川大学は 学校法人江戸川学園が千葉県流山市に設置する大学です。1989年に設置認可され、1990年4月に開学しました。 本学は「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成（人間陶冶）」を教育理念に掲げ、「広く知識を授けるとともに専門の社会学、心理学、教育学等の思想と理念をきわめ、これを実践の場に移しうる能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成」を教育目的としています。</p> | <p>【道の駅「しょうなん」】 『道の駅しょうなん』は、県道船橋我孫子線手賀大橋のたもとに、千葉県内8番目の「道の駅」としてオープンした道の駅です。24時間利用可能な大駐車場、トイレ、電話が設置されています。 手賀沼遊歩道へのアクセスも抜群！ドライブの休憩はもちろん手賀沼周辺観光の拠点としてご利用いただけます。</p>  |

道の駅「しょうなん」と江戸川大学との連携②



令和元年度 取組み内容：道の駅屋台販売案 ～地域の資源を活かした屋台おこし～

取組み概要

道の駅で屋台を使った新事業展開

地域の資源を活かした屋台おこし

- ・春夏秋冬の季節替わりで商品を変更
- ・月、週、日替わりで販売者をローテーション

⇒「しょうなん」地域おこしの新たな拠点

【提案販売商品】

○おでん

○アイス、ソフトクリーム類

⇒道の駅しょうなん独自の物産を活かした商品を提案していきたい

(例) 柏市だけで生産されている貴重な野菜「根芋(ねいも)」のソフトクリーム

提案の先駆性・ポイント

近年リニューアルする道の駅しょうなんで「しょうなん」でしか味わえない魅力を作る屋台とする。

- ・地域おこしの新たなジャンルとして生産者と消費者に

しょうなんを活気づけるファンを生み出す。

- ・道の駅しょうなんを

「地産地消の中継点」として役割を持たせることにより

消費者と販売者の距離をグッと縮める。

道の駅「いちかわ」と江戸川大学との連携①



道の駅「いちかわ」と江戸川大学（社会学部）の学生が連携し、道の駅の特徴を徹底的に調査し、新しい角度からの提案と周辺地域の活性化を目的とするプロジェクトに取り組みます。

現在の道の駅の特徴・状況

【特徴】

- 道の駅の中にカルチャースクールが開かれている。（ヨガやダンスなど）
- カルチャースクールの成果を展示するコーナーが設けられている
- 野菜直売所「いちかわファーム」が人気。生産者の顔写真入りの野菜が販売されている



【状況】

- 駐車場には、たくさんの車が駐車されていることが多いが、肝心の道の駅内にはあまり人がいない
- 外環自動車道の横の立地のため、大型車の駐車スペースが多い
- 地元ナンバーの車が多く駐車されている

【江戸川大学（所在地：東京都）】

江戸川大学は、学校法人江戸川学園が千葉県流山市に設置する大学です。1989年に設置認可され、1990年4月に開学しました。

本学は「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成（人間陶冶）」を教育理念に掲げ、「広く知識を授けるとともに専門の社会学、心理学、教育学等の思想と理念をきわめ、これを実践の場に移しうる能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成」を教育目的としています。

【道の駅「いちかわ」】

道の駅いちかわは、外環道「市川中央IC」や「市川北IC」から近く「日本初の都市型道の駅」として、ショップ、レストラン、カフェ、ラウンジ、カルチャースペース、スタジオ等他の道の駅にない魅力が揃っています。



道の駅「いちかわ」と江戸川大学との連携②



令和元年度 取組み内容：飲食店出店とレンタサイクルを活用した観光PR

今後の提案

軽食が取れるお店の出店

外環自動車道横という好立地から、トイレ休憩の来訪者が多いため、その人たちをターゲットにした短時間で軽食の取れるお店を作る

- ⇒地元食材を使用
- ⇒休憩だけではなく、買い物にも回遊してもらう

レンタサイクルを活用した観光PR

周辺観光地が多く存在するため、レンタサイクルを利用し、道の駅を基点とした周辺地域の活性化もいのではないかと。



道の駅「発酵の里こうざき」と日本大学との連携①



道の駅「発酵の里こうざき」と日本大学（理工学部）の学生が連携し、幸せに働き続けるための拠点形成計画を目的とするプロジェクトに取り組みます。

発酵の里こうざきと周辺環境の現状の課題

課題①—観光資源の偏り
多くの有名な観光施設が、同じ地区にかたまっており、観光客が分散せず、神崎町全体の観光に繋がらない

課題②—買い物難民の増加
近隣に店舗がないため、車での買い物中心なため、今後、買い物難民の増加が予想される

課題③—耕作放棄地の増加
高齢者率・耕作放棄地は担い手不足により今後も増加が予想されている

【対策実施】

- 実施① 文化施設の充実
- 実施② 交通機関の充実
- 実施③ 新規住宅の整備



移住の決め手に欠ける

【日本大学（所在地：東京都）】

日本大学は、1889年（明治22年）に創立された日本法律学校を前身とします。

現在は多彩なフィールドを備えた魅力のある真の総合大学として、教育・研究活動を始め、医療、生涯学習等、社会の発展に貢献すべくさまざまな活動を展開しています。

【道の駅「発酵の里こうざき」】

～日本の「おいしい文化」を伝えたい～
日本酒、味噌、醤油・・・

誰からも愛される自然の旨みは、発酵が生み出す味の芸術。

千葉県で一番小さな町から世界へ、道の駅「発酵の里こうざき」は日本が誇る発酵食品の文化を発信していきます。



道の駅「発酵の里こうざき」と日本大学との連携②



令和元年度 取組み内容：地域の施設を活用した料理教室や生鮮野菜直売所の設置を提案

取組み概要

耕作放棄地オーナー制度の運営

耕作放棄地をオーナー制度により農地として再活用することで町内産の商品が増加。神崎町産をブランド化させ、付加価値を与える。

コミュニティセンターの活用

①発酵料理教室の支店設置【観光】

②生鮮野菜直売所の支店設置【地域】

新規施設に関して、コミュニティセンターを活用することで初期投資を節約でき、また道の駅に観光拠点だけでなく生活拠点機能を加えることで街の課題解決につながる。

対象地：耕作放棄地（約370,000㎡）

| オーナー | 農家 | 道の駅 |
|----------|----------|---------|
| 関東在住の会社員 | 担い手募集中の方 | 神崎町産の食材 |

農地購入



農地整備



運営



出典：H27年神崎町HP

道の駅「富士川」と拓殖大学との連携①



道の駅「富士川」と拓殖大学（観光学部）の学生が連携し、多くのイベントの企画・運営などを通じて、道の駅の新たな機能創出に取り組みます。

現在の道の駅の良いところと今後の機能強化に向けた新しい取り組み

①今までの道の駅を舞台にしたまちづくり活動

- ・シンポジウムの発表会開催
- ・郷土料理“みみ”の試食会開催
- ・学生提案の実現化
- ・地域コミュニティの窓口、情報発信の拠点としての活用

②道の駅の新しい機能強化に向けたこれからの取り組み

- ・道の駅の魅力向上に対する支援
- ・新しい集客層に向けたイベント活動の企画
- ・ダイヤモンド富士における活用
- ・SNSの利用
- ・新商品の開発
- ・防災機能の認知向上

【拓殖大学（所在地：東京都）】

拓殖大学は、拓殖大学は、建学の精神である「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為な人材の育成」に基づく教育目標を掲げ、教育の質の向上や国際的通用性の確保を目指して、3つの基本方針を定め、国際性、専門性、人間性を備えた人材の育成に取り組んでいます。

【道の駅「富士川」】

道の駅「富士川」は、県内外からの多くの人々が訪れることを見込み、町の観光情報をはじめ、歴史や文化などの情報を発信するとともに、特産品の紹介や販売などを行います。

屋上にあるウッドデッキテラスと、旧つきよね学校の太鼓堂を思わせる展望室から外の景色が眺められること、太鼓堂の屋根上にある鯉、太陽光パネルの設置、冷暖房には地中熱ヒートポンプを取り入れランニングコストの削減に努める環境に配慮した施設です。また、災害時には水防対策室としての機能も兼ね備えています。

道の駅「富士川」と拓殖大学との連携②



令和元年度 取り組み内容：今までの道の駅を舞台にしたまちづくり活動

取り組み概要

シンポジウムの発表会開催

2017年1月に町の魅力や地域の抱える課題について現地調査の研究内容を町民に伝えるため、シンポジウムを開催。シンポジウムでは学生達からこれから取り組みたい様々な活動が提案された

郷土料理“みみ”の試食会開催

“みみ”を使用した新レシピを学生が考案。新しい観光資源とするために、富士川町の食生活安全委員会と関係者を交え試食会を道の駅で開催。評価の高かったミネストローネ風“みみ”を提供し、道の駅利用者など多くのお客さんから高い評価を得た。

学生提案の実現化

シンポジウムの学生発表を受け、道の駅では早速レンタル自転車を設置し地域観光の移動手段として整備。また、地元の名産柚子を使用した芳香機を休憩場に設置した。

地域コミュニティの窓口、情報発信の拠点としての活用

道の駅では、地域住民や道の駅社員と学生を交えて意見会を定期的開催するなど、相互間の活動報告や地域活動拠点として情報発信の拠点として活用。



令和元年度 取組み内容：道の駅の新しい機能強化に向けたこれからの取り組み

取組み概要

道の駅の魅力向上に対する支援

道の駅は訪問客にとってさらに魅力ある憩いの場整備に向けて活動を進めており、私たちも地域活性化の観点から「地方創生・観光を加速する拠点」作りに協力したい。

新しい集客層に向けたイベント活動の企画

外国人観光客が向けの施設整備に助言し、「多言語対応」、「キャッシュレスの導入」など観光客に居心地の良い道の駅作りに協力していききたい。
また、若者層へも、同じ若者の視点からイベントを考案することにより、今までにないユニークなイベント企画。

ダイヤモンド富士における活用

名物「ダイヤモンド富士」目当ての観光客向けのイベントを企画

SNSの利用 Instagram・Twitterの活用

新商品の開発 新しい試みの商品開発

防災機能の認知向上

防災拠点としての役割を住民に正しく認識してもらえるような広報普及活動を展開。防災対策に貢献できるのか、関心を持って協力したい。

道の駅の



道の駅「中条」と松本大学との連携（5年目）①



道の駅「中条」と松本大学総合経営学部清水ゼミの学生が中心となって実践する「88（やまんば）プロジェクト」は子育ての神様として慕われる山姥伝説を地域のお宝として捉え、長野市道の駅「中条」を拠点とした地域活性化を推進します。「88プロジェクト」は課題解決型学習（Problem Based Learning）であり、複数のプロジェクトを同時に立案し、運営するプロジェクト型学習（Project Based Learning）です。学生のアイデアが形となり、実を結びはじめました。

「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条をコンセプトにした企画が実現

- ・88プロジェクトのロゴとスタッフジャンパー制作(2015)
- ・やまんばの里キーホルダー制作(2015)
- ・ポスター制作(2015～)
- ・Kidsダンサーとのダンスイベント企画(2015-2016)
- ・「きのこ千人鍋」(2015-2016)
- ・笹おやきのパッケージデザイン制作(2016)
- ・スタンブラリーの企画と運営(2017～)
- ・落ち葉アート(2018-2019)
- ・イベントキャラクター「ナカジョニー」制作(2018～)
- ・AR（拡張現実）動画制作(2018)
- ・「ナカジョニーのうた」CD制作(2019)
- ・「ナカジョニー体操」DVD制作(2019)
- ・川柳コンテスト(2019～)
- ・長野市立中条小学校での「ナカジョニー体操」合同練習および川柳コンテスト表彰式(2019)



88プロジェクトファームでの6次産業化の推進、商品開発による長野市中条地域の活性化

地域特産物である西山大豆を使った商品「西山大豆おからドッグ」(2015,2017)「西山大豆豆乳スープ」(2017)「笹クレープ」(2018)「笹豆乳もち」(2019)を開発し、販売(2015-2018)。88プロジェクトファームでの西山大豆の種まき、収穫、脱穀といった生産、加工、販売までの6次産業化による地域活性化を推進。



【松本大学（所在地：長野県松本市）】

学校法人松商学園により地域社会の発展に貢献できる人材の育成をめざして、2002年松本大学は開学しました。松本大学の教育手法である地域と連携した実践型教育は、地域社会の現場で学ぶ授業形式「アウトキャンパス・スタディ」を取り入れ、学生の主体的な学びを養成します。

総合経営学部では「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の教育活動を推進しています。

2015年度より「88（やまんば）プロジェクト」として道の駅「中条」下内光雄駅長と中条の皆さま、増尾先生、室谷先生、矢崎先生、小林先生、清水先生、成先生のご協力のもと、総合経営学科清水ゼミの学生が中心となって約20名で活動中です。

【道の駅「中条（なかじょう）」】

1995(平成5)年に登録された道の駅「中条」は、虫倉山 おぶっこ アルプスを望み、信州百名山虫倉山（むしくらやま）に抱かれた自然豊かな道の駅です。長野市西部の山間部、主要地方道

長野大町線沿道に立地します。

「おぶっこ」「笹おやき」「西山大豆豆乳ドーナツ」が絶品です。さあさ、道の駅「中条」へよとくらえ！



道の駅「中条」と松本大学との連携（5年目）②



令和元年度 取組み内容①：「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条をコンセプトにした企画が実現

★アイデアの源泉★

「こんなことをしたい！」というゼミ生の1人が考えた直感や妄想からスタート

1人のワクワクや感動をゼミ生みんなで共有ビジョン（VISION）を作成

道の駅「中条」でプレゼンテーションを行い、企画案を決定

実施に向けてPDCAサイクルを回す。マーケティングの理論と実践の融合をめざす。先輩の活動を学び、自分は何ができるか考える。

★原案★



企画→実施

- 中条のイベントキャラクター「ナカジョニー」



初代



2代目

- 川柳コンテストポスター制作



- 長野市立中条小学校で川柳コンテスト表彰式



- 「ナカジョニーのうた」CD制作
- 「ナカジョニー体操」DVD制作



- 第3回スタンブラリーは今年も大好評！たくさんの方にご参加いただきました。



令和元年度 取組み内容②：88プロジェクトファームでの6次産業化の推進、商品開発による長野市中条地域の活性化

企画→実施

88プロジェクトファームでの西山大豆の種まき、収穫、脱穀といった生産、加工、販売までの6次産業化の推進



地域特産物西山大豆を使った商品開発
●笹豆乳もち原案(2019) ●笹クレープ原案(2018)



地域特産物である西山大豆を使った商品開発

- ・「西山大豆おからドッグ」(2015)の開発と販売
- ・「笹おやき」のパッケージデザイン制作(2016)と販売
- ・「西山大豆おからドッグ」(2017)の改良と販売
- ・「西山大豆豆乳スープ」(2017)の開発とふるまい
- ・「笹クレープ」(2018)の開発と販売
- ・「笹豆乳もち」(2019)の開発

2019(令和元)年台風第19号の影響により、長野市中条地域最大のイベントである第13回むしくらまつりは中止となり、開発した「笹豆乳もち」を販売することができませんでしたが、私たちは「できることを、できるかたちで、できる範囲で」活動し、長野市中条地域の活性化に向けたアイデアを出し続けます。

●西山大豆おからドッグ
原案 商品化(2015)



食べやすい大きさに改良(2017)

●笹クレープ



●笹おやき
パッケージデザイン制作

88 Project



道の駅「上田道と川の駅」と長野大学との連携①



道の駅「上田道と川の駅」と長野大学（環境ツーリズム学部）の学生が連携し、イベントの企画・運営を通じた道の駅間連携を見据えたプロジェクトに取り組みます。

今までの取り組みと新しい取り組み

【2013～2016年】

道の駅学生イベント企画の実施
⇒先輩たちが「上田道と川の駅」でイベント企画を継続的に実施私たちが行った企画の先駆に・・・



【2017年】

「東信州道の駅大集合」企画・実施
私たちが「上田道と川の駅」で行った企画東信地域の道の駅に協力してもらい実現

【2018年】

道の駅研究
県内以外の様々な道の駅の研究を開始。
「全国モデル道の駅」の視察なども実施

【長野大学（所在地：長野県長野市）】

長野大学環境ツーリズム学部山崎ゼミナールでは、「観光スタイルと観光地整備の過去・現在・未来」をテーマに「道の駅」と「スキー場」の2つのグループに分かれこれからの観光のあり方について考えている。
私たちは「道の駅」グループに所属し活動してきた。

【道の駅「上田道と川の駅」】

全国初の「道の駅」と「川の駅」が一体となった施設。地域住民が中心となった「おとぎの里」が指定管理者として運営しており「持続可能な豊かな地域の創造」を目指し活動を行っている。地域の防災拠点の役割も果たしており、ヘリポートや備蓄倉庫なども完備している。



道の駅「上田道と川の駅」と長野大学との連携②



令和元年度 取り組み内容：道の駅間連携を見据えた「上田道と川の駅」での挑戦

取り組み概要

「東信州道の駅大集合」企画・実施

- ・「上田道と川の駅」で、周辺道の駅の物産を展示・販売
- ・ブースへの誘客と地域の理解促進のための巨大ジオラマを制作・展示

⇒周辺道の駅：長野県東信地域の8駅

みんなで東信地域を盛り上げよう！



道の駅は“ただの商業施設”であってはならない

●商業施設なら、近隣施設は競争相手

⇒「道の駅」の地域振興機能では、広域地域を共有する協力者（信州道の駅交流会は、個々の道の駅だけでなく、ALL信州の魅力アップを目指す）

●近年期待されている「道の駅」の防災機能を発揮するには、平時から“公共の場”という意識を持つ必要がある（上田道と川の駅では、台風19号被災時に避難所への食事提供で力を発揮）

「地域に根差した道の駅」の発展に期待

道の駅「女神の里たてしな」と長野大学との連携①



道の駅「女神の里たてしな」と長野大学（環境ツーリズム学部）の学生が連携し、地域の人・環境をつなぐ複合拠点を目的とするプロジェクトに取り組みます。

プロモーションや道の駅の有効活用の取組への参加と道の駅のバージョンアップ構想への参加・提案

①「女神の里たてしな」のプロモーションへの協力・参加

- 独自企画プログラム提供
- 収穫祭等のパンフレットやチラシづくり
- グリーンツーリズムの検討・企画

②「バージョンアップ構想の企画提案と実現に向けた社会実験

- 周辺資源を複合した拡張、充実化構想の立案
- オープンカフェ社会実験

【長野大学（所在地：長野県長野市）】

立科町出身の学生と、その他県内・県外出身学生が、各々の眼差して立科町の魅力を掘り起こし、道の駅の活性化に継続的に取り組んでいます。

単発のイベントではなく、道の駅・女神の里たてしなの隠れたポテンシャルを引き出し地域創生の複合拠点を目指した『社会実験』が実を結ぶことを祈ります。

【道の駅「女神の里たてしな」】

さわやかな風を感じ、浅間連峰の美しい眺め等ロケーションは抜群です。

高原と田園の風景が味わえるのがこの道の駅の魅力です。



道の駅「女神の里たてしな」と長野大学との連携②



令和元年度 取組み内容①：「女神の里たてしな」のプロモーションへの協力・参加

取組み概要

独自企画プログラム提供

道の駅に関するクイズを考え、来場者（子供達）向けにクイズ大会を実施。クイズは、立科町の特徴や魅力を来場者に見つめ直してもらおうきっかけに。

収穫祭等のパンフレットやチラシづくり

四季折々のイベントでは、ポスターやチラシづくりを行い、道の駅等に展示するなどして、来場者誘致等のプロモーションに協力

グリーンツーリズムの検討・企画

道の駅を起点として、農業体験や農村暮らし体験を楽しんでもらうプログラムが提供できないかと、指定管理者や地元農村体験組織と連携した、グリーンツーリズムのブラッシュアップに関する検討を実施。関係者で共同で実施したモニターツアーに参加して意見交換



令和元年度 取組み内容②：「バージョンアップ構想の企画提案と実現に向けた社会実験

取組み概要

周辺資源を複合した拡張、充実化構想の立案

直売所、耕福館（こうふくかん）、クラインガルテン、隣接する民間レストランを含めた、道の駅女神の里たてしな周辺を300分の1スケールで再現。

私たちが理想とする、オープンカフェ・斜面を花畑・足湯の設置・下り坂を滑り台も含めて、理想の道の駅を提案。

オープンカフェ社会実験

有効活用されていないスペースの現状を知ってもらうことを目的として、オープンカフェを開き、そこでアンケート調査を実施。多くの方にご回答をいただいた。



立科町に関わる着ぐるみを着て、子供たちと触れ合い、楽しい時間を提供。

道の駅のオープンが大々的にアピールするポスターや、オープニングイベントの紹介ポスターを作成し、有効活用していただいた。

道の駅のコセプトや思いを利用者に伝えるために、私たち自身で道の駅の駅長にインタビューをし、パンフレットの記事とする等、構成に工夫したパンフレット原稿を作成した。



道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携①



金沢星稜大学の学生が、道の駅「めぐみ白山」で白山市の地域活性化に向けた調査研究を実施。平成30年度から実施し、今回で2年目となるため、昨年の調査結果を踏まえ、より実情に沿った継続調査とともに、新たなテーマの新規調査を実施。



【白山市の概要・課題】

白山市は石川県の南部に位置し、日本海から日本三名山の一つでもある白山まで、起伏に富み、市内全域で白山手取川ジオパークをなす。観光資源が豊富な白山ろく地域（白山市域の山間地である河内、吉野谷、鳥越、尾口、白峰の5地域）では人口流出が深刻で、老年人口の占める割合は全体の約40%であり、集落の維持・存続が危ぶまれ、早急な地域活性化が不可欠である。（平成28年度白山市統計より）

地域活性化のためには定住人口増加はもちろんのこと、交流人口（観光客等）の拡大が重要である。地域の観光・情報発信の拠点とし、平成30年4月にグランドオープンした道の駅「めぐみ白山」をフィールドに、白山市の地域活性化に向けた調査・研究を実施。

- 【取組内容】
- ①道の駅「めぐみ白山」交通量調査
 - ②道の駅「めぐみ白山」アンケート調査
 - ③道の駅「めぐみ白山」SDGs商品調査

金沢星稜大学

金沢星稜大学は、昭和42年に金沢経済大学として設立し、平成14年に金沢星稜大学に名称変更されました。建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の実現を目的に、北陸の産業・文化の発展に寄与するとともに、広く国家社会に貢献することを使命としています。



道の駅「めぐみ白山」

平成30年4月にオープンした直轄一体型の道の駅である。道路休憩施設には、中庭を望める明るいトイレや子育て世代にやさしい授乳スペースを設置。地域振興施設には、白山の食材を使ったレストランと地場産品の直売所が併設。また、観光情報コーナーには、大型パノラマスクリーン(2.7m×11.4m)や北陸新幹線実寸大パネル展示等で白山の魅力ダイナミックに発信している。



道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携②

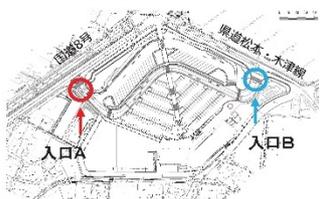


令和元年度 取組み内容：道の駅「めぐみ白山」にて交通量調査及び案内標識調査

道の駅「めぐみ白山」にある2箇所の入口で交通量調査を実施。利用者の傾向や特徴を把握し、案内方法などの改善方法を提案する。

現地調査

令和元年9月5日(木)13:30～17:00及び6日(金)9:30～12:00に道の駅に入る車両を時間別及びナンバープレートの地名に分類して調査をした。なお、周辺の看板を確認した。



入口A



入口B

調査結果

- ・全車両の合計は550台であった。（調査開始時点の駐車台数を含む）
- ・入口A(国道8号)は62台で、入口B(県道松本木津線)は418台であった。
- ・時間帯別交通量は5日は15時頃、6日は11時頃が多かった。
- ・県外ナンバーでは愛知、大阪、新潟等の各方面の都道府県から来ていた。
- ・周辺1kmを歩いて調べたところ海側方面800m地点に看板があった。
- ・国道8号を2km以上金沢方面へ行くといくつか看板があった。

考察・提案

- ・全体の9割が県道松本・木津線側の入口Bを利用、残る1割が国道8号側の入口Aから出入りしている。
- ・国道8号から来た車両が、余裕を持って進入するため道の駅手前1kmあたりに看板を設置する。
- ・小松方面から来た車両に対して看板を増やし特に目立つようにする。
- ・スピードを出して入ってくる車がいるため、入り口に徐行看板を設置する。
- ・国道8号沿いの入り口の看板を大きくする。

道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携③



令和元年度 取組み内容：道の駅「めぐみ白山」にてアンケート調査

道の駅「めぐみ白山」の利用者に、来訪の目的や道の駅に関する意見等をアンケート調査した。調査結果を昨年と比較・分析することで、問題点や改善点などを提案する。

| 現地調査 | 調査結果 | 考察・提案 |
|---|--|---|
| <p>令和元年9月5日(木)13:30～17:00及び6日(金)9:30～12:00に施設出入口付近で利用者に対してアンケート用紙に記入して頂く形式で調査を実施した。また、具体的な自由意見についてはヒアリングをした。</p>  | <p>【昨年との比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳代利用者の割合が、昨年11%から今年27%と増えている。 ・道の駅から次の行き先が、昨年は白山市が一番多かったが、今年は金沢市が一番多かった。 ・利用目的は休憩・トイレの割合が増え、買い物や食事の割合が減った。 <p>【アンケート結果及び意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜も食事がとれるとよい ・シャワーがあるとよい ・地元産品が多くてよい ・駐車区分がわかりやすい ・トイレのきれいな庭が石川らしい ・青果販売を拡大してほしい | <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみ白山でしか食べるのでできない、めぐみ白山だからこそ食べなくなるメニューをつくる。また、地元の人でも買いやすいような商品の販売(地産地消)を行う。 ・道路沿いに看板を設置するなど、もっと立ち寄りやすい目印を設ける。 ・レストランの営業時間の延長 ・休憩施設利用者に対して買い物や食事を促す宣伝などが必要 |

道の駅「めぐみ白山」と金沢星稜大学との連携④



令和元年度 取組み内容：道の駅「めぐみ白山」にてSDGs商品調査

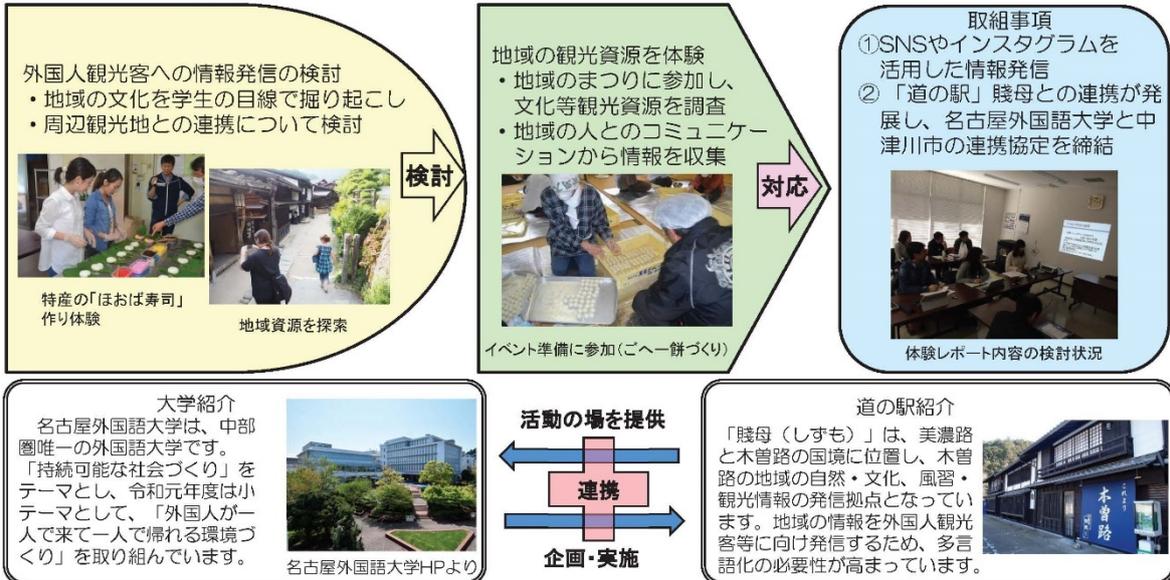
平成30年6月15日、白山市はSDGs未来都市に選定された。道の駅「めぐみ白山」にて陳列されている商品を調査し、持続可能な開発目標(SDGs)との関係を考察・提案する。

| 現地調査 | 調査結果 | 考察・提案 |
|---|---|--|
| <p>令和元年9月5日(木)13:30～17:00及び6日(金)9:30～12:00に地場産品の直売マーケットで陳列されている商品を観察し、SDGsの17の目標との関連性を調査した。</p> <p>売り場内を定点観測し通過する人数や傾向を把握した。</p> <p>SDGs認知度等に関するアンケート調査を実施した。</p>  | <p>以下の陳列商品に、SDGs17の目標との関連性が確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純米酒「高砂」 ・麴あまざけ ・白山米粉入りメロンパン ・白山ふるさとかるた ・isica(猪や鹿の革細工商品) ・金沢砂丘サイダー ・白山美人(豆腐) ・かぼちゃスープ ・スマホケース ・INO(猪の油ハンドクリーム) ・白山堅どうふシヨコラ ・加賀たまかざり ・能登ふぐぬか漬け ・白山肉そぼろ | <p>道の駅「めぐみ白山」にて陳列されている商品を観察した結果、主要商品の中で14個の商品でSDGsの17の目標と関連付けが確認でき、更にアピールするためのオリジナルポップを設置した。</p> <p>また、新ゼミナールがInstagramでアカウントを作成し、調査を行った商品について情報発信し、SDGsの認知度を上げるきっかけを作った。</p> <p>定点観測から、地元の人が野菜を目的に来店していることがわかった。ツアー客にも野菜の人気は高かった。</p> <p>SDGsの認知度は3割ほどでまだまだ低い。</p> <p>SDGsの関連付けについて白山市と連携し、道の駅「めぐみ白山」が地方創生の拠点となるよう、ここでないと手に入らない価値を創出していきたい。</p> |

「道の駅」賤母と名古屋外国語大学との連携①



名古屋外国語大学が道の駅「賤母（しずも）」と連携し、平成27年度から、地域の自然と文化、風習・観光情報の発信に取り組んでいます。また、SNSを活用し、即時性のある情報発信を実施しました。



「道の駅」賤母と名古屋外国語大学との連携②



令和元年度 取組み内容：インバウンド対応

①打ち合わせの実施

■実施内容

- 実施時期 2019年9月、11月
- 場所 山口公民館等
- 内容 9月5日(木)に実行委員会への参加。11月2日(土)に「ごへー名人会蜂谷宅」を訪れ、タレ作りに参加。11月9日(土)は、五平餅の団子にぎり、試し焼きを実践。

取り組みの様子
(タレ作り)



取り組みの様子
(五平餅作り)

②賤母ごへー祭りの参加

■実施内容

- 実施時期 2019年11月10日(日)
- 場所 道の駅賤母
- 内容 学生自らが1ブースを使い、五平餅の販売に取り組み、外国人を含む観光客が従来の五平餅だけでなく、どのような味付けに関心を示すかに着目し、様々なトッピングの販売にチャレンジをした。



■販売の様子
青のり、チーズ、トウバンジャンの3種類のトッピングを販売

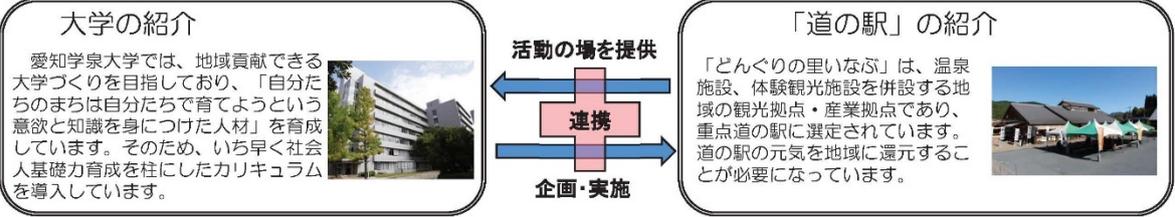
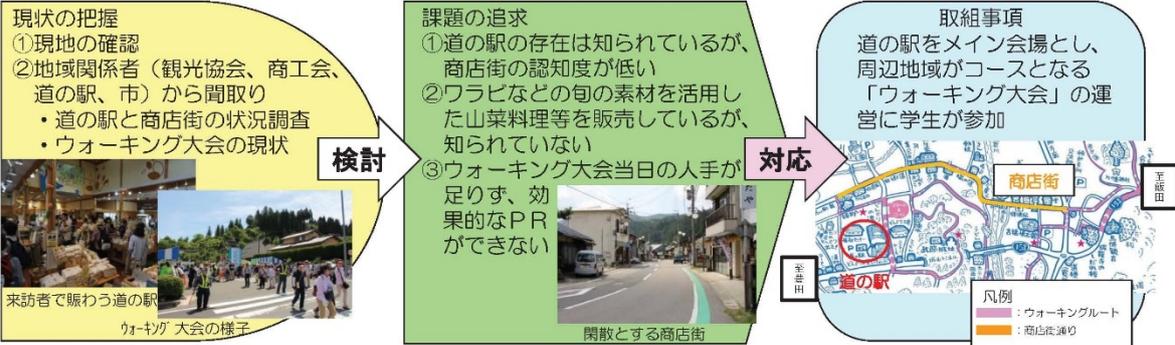


■SNSの活用
情報発信をSNSを活用して実施

「道の駅」どんぐりの里いなぶと愛知学泉大学との連携①



「道の駅」どんぐりの里いなぶは国道153号にあり、愛知県・岐阜県・長野県の各県境に近接することもあり、年間約60万人の来訪がある。一方、旧宿場町であった地区の商店街は空き店舗が増え活力の低下が否めない。商店街の活性化のため、道の駅と連携した取組を大学が実施した。



道の駅「どんぐりの里いなぶ」と愛知学泉大学との連携②



令和元年度 取組み内容：集客イベントのサポートによる地域の活性化

〇ウォーキング大会「歩かまい稲武」を活用した地域の活性化

■「歩かまい稲武」概要

- 1開催日 令和元年5月19日(日)
- 2場 所 道の駅「どんぐりの里いなぶ」を含む豊田市稲武地区中心部一帯
- 3参加者 665人(豊田市街地・名古屋市からの参加者多数)
- 4内 容 参加者が7km、8kmのコースを歩き、自然環境と中山間地の雰囲気にふれる
- 5連携の趣旨 道の駅を拠点にした地域全体の活性化について、多数の集客があるイベントをきっかけにした事業を実施

①地域の歴史や公共交通利用のPRを実施

- ・藪玉から絹糸を作るクラフト体験の運営
- ・豊田市街地から「道の駅」に乗り入れている路線バスの利用PRを学生が実施



絹糸を作るクラフト体験



路線バスのPR

ウォーキング参加者に地域の魅力をPR

②商店で人気の特産料理をPRするPOPを作成

- ・各商店の売りを明記した手作り看板を学生が作成
- ・特産料理の販売を支援



特産品である山菜を利用した天ぷらや店舗紹介を兼ねたPOPを作成



店頭売りでの声かけや接客を実施

商店街の名所をユニークにわかりやすく紹介

道の駅「竜王かがみの里」と立命館大学との連携①



令和元年8月滋賀県の「第3次産業生産性向上支援」のモデル事業に採択され「竜王かがみの里」では立命館大学と産学連携活動を開始。滋賀県産業支援プラザの指導も受けSDGsの活動宣言を行った。野菜ソムリエ、出荷組合他と共に、現場の創意工夫を起点にサービス等具体的な業務改善に取り組んだ。

<連携内容の確認>

- ・道の駅「竜王かがみの里」からのニーズの確認
- ・現地調査により改善点を確認

<企画・提案>

反映

- ①YWTMシートを活用し日常の活動状況（行動・意識）を見える化する。
組織間の風通しを良くし、信頼感の醸成と改善や提案が上長や全体に発信しやすい仕組みを作る。
- ②開発目標 SDGs「持続可能な開発目標」を設定する。
野菜ソムリエ他による情報発信を強化し、存在感を高める。
- ③知名度向上
竜王町長から全国道の駅として初めての「SDGs宣言」を行いアピールする。

<期待する効果>

発展

- ・SDGs宣言で道の駅かがみの里の経営ビジョンが明確となり社内外一体となった活動で存在価値を高める。
- ・お客様へのサービス(価値)提供と業務改善のベクトルを合わせ、効果的な活動を目指す。
- ・メンバー・リーダー・マネージャーの一体感を醸成していく。

【立命館大学】

立命館は本年、創始150年、学園創立120周年を迎えた。建学の精神である「自由と清新」のもと、グローバルな存在感を持ち、かつ、地域に根ざした私立大学として地場産業や地域経済への貢献を果たす。地域イノベーションのモデルケースを構築することを目指し活動している。

【道の駅「竜王かがみの里」について】

竜王かがみの里は、国道8号線沿いに有ります。滋賀県で10番目の道の駅として平成15年に建設されました。農業生産が盛んで果樹・野菜栽培と共に近江牛発祥の地としても有名です。町のブランド力向上・魅力発信の為、6次産業化推進、畜産業・農業就業者支援などに取り組んでいます。2016年に重点道の駅に登録されました。

道の駅「竜王かがみの里」と立命館大学との連携②



令和元年度 取組み内容：SDGs活動の展開

開発目標

- ①野菜ソムリエがいる道の駅として活動を実践しました。
- ②地球環境の改善に向けこれからの農業に取り組む出荷者と連携しその活動を支援しました。
- ③食品ロス、食材ロスに取組む社会活動団体と連携しその活動を支援しました。

SDGs活動宣言

道の駅周年祭に活動宣言を行いました(2019.11.23)
参加者:立命館大学教授、学生、竜王町長、副町長、出荷組合副組合長、みらいパーク取締役、道の駅駅長(アグリパーク、かがみの里)
場所:道の駅竜王かがみの里歴史広場



SDGsって?



上段 立命館教授によるSDGs説明
下段 学生さんによるクイズ形式の出題

食材ロスを減らす取組



漬物屋さんが形の曲がった野菜などをお漬物にして販売された。

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携①



H27より道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学が連携して、若者ならではの視点・感性及び専門分野を活かした新たな特産品の創出等、地域活性化に資する取組を進めています。

<連携内容の確認>

・道の駅「竜王かがみの里」からのニーズの確認 ・現地調査により改善点を確認

<企画・提案>

反映

- ①特産品を活かしたオリジナル商品の開発
地元産の野菜や果物を使った焼き菓子作りの指導、開発 牛丼丸に続く新商品の開発
- ②人材確保 地域活性化を目指した若手人材の活用
- ③情報提供（休憩）施設など、施設の有効活用
多様なニーズに応じた場所の利用、イベントの開催 等

発展

<期待する効果>

- ①新たな商品の開発による地域活性化
- ②地域活性化の担い手となる人材育成・確保 → 令和元年度、滋賀短期大学から「竜王かがみの里」へ1名就職（みらいパーク竜王は昨年度より毎年1名の入社）
- ③ドッグラン、ドッグカフェの企画、情報館の活用で施設の有効利用

【滋賀短期大学】

1918（大正7）年の「松村裁縫速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたどえ、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学び力を引き出すことを基本方針としています。

【道の駅「竜王かがみの里」について】

竜王かがみの里は、国道8号線沿いにあります。滋賀県で10番目の道の駅として平成15年に建設されました。農業生産が盛んで果樹・野菜栽培と共に近江牛発祥の地としても有名です。町のブランド力向上・魅力発信の為、6次産業化推進、畜産業・農業就業者支援などに取り組んでいます。2016年に重点道の駅に登録されました。

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携②



令和元年度 取組み内容：新たな商品の開発会議・施設の有効活用としてのイベント開催

連携会議

滋賀短期大学で連携会議を開催
日時：令和元年5月30日
内容 ①ドッグメニュー ②施設の有効利用

出席者

滋賀国道事務所 1名、滋賀短期大学 副学長、教授、学科長、特任教授、准教授 計8名 学生5名
道の駅駅長、副駅長、企画広報担当 計5名

①ドッグカフェメニュー・ドッグランのアイデア

〔ドッグカフェ、ドッグランの企画をビジネスコミュニケーション科の学生からプレゼン〕

- ・犬専用のメニュー、お菓子の販売について（竜王犬まんま（そば粉使用）、野菜のキッシュ おからのハンバーグ、季節の竜王ゼリー、竜王果物ケーキ（さつま芋使用））5種類を提案 提供の仕方も工夫する事を検討

学生達によるメニュー製作

「竜王犬まんま」、「竜王ゼリー」を生活学科食健康コースの学生が作り、試食会とアンケートでレシピを決定

②ひなたちのおもてなし



場所 情報館
日時 2月29日

（内容）
お雑煮スイーツ作り
コンピューター占い
野菜くじ
野菜アウトレット市

令和2年2月29日開催予定をしていましたが、新型コロナウイルスの為中止になりました。

道の駅「アグリパーク竜王」と滋賀短期大学との連携①



平成30年8月に道の駅「アグリパーク竜王」と滋賀短期大学が連携し、学生の視点で農産物や地元食材を使った商品開発を進め、また、竜王町の魅力を発信をする中で竜王町に興味を持ってもらい新たな集客方法の実現などを進めています

<連携内容の確認>

道の駅「アグリパーク竜王」からの提案 → 竜王産フルーツの活用

<企画・提案> **反映**

- ・開催時期に収穫できるフルーツはどんなものがあるのかをリサーチ
- ・旬のもので一番収穫量が多く、美味しい時期に提案できるフルーツ → 桃とブルーベリー
- ・暑い時期ということで、バターをたっぷり使ったものは重くなり食欲がわかない。
- ・結果：冷たいものでその場で食べやすく、またカップで提供でき口当たりのいいものと考えた時桃とブルーベリーを使ったブランマンジェがいいのではと思い考案した

<期待する効果> **発展**

商品開発を通じて、
①学生のプロ意識の向上 ②竜王産のフルーツの活用
③フルーツの町竜王町のPR

<連携内容の確認>

竜王の魅力を伝え広めることを目的とし、お子様からお年寄りまで幅広く楽しんで頂ける企画作り

<企画・提案> **反映**

- ①昔ながらの竜王を知る：
アグリパーク竜王の田園資料館内では昔ながらの暮らしを再現しています。そこでもっと興味を持ってもらえるようなPRの実施
- ②昔遊び：
昔ながらの遊びを体験2020年1月1日～4月3日まで「2020滋賀 琵琶湖のひな人形作り」が開催されており、アグリパーク竜王でも昔のひな人形の展示やすごろくを予定。その他イベント企画を検討
- ③双竜の里御膳の再現：
竜王町の豊かな大地や自然に囲まれ、また優しい人柄などが生み出した「双竜の里御膳」を再現したい
滋賀短期大学とあえんぼグループの連携にて商品化を検討
御膳だけではなく、総菜としての販売。また竜王にちなんだ料理の販売など

<期待する効果> **発展**

竜王町に興味を持ってもらうことで、来園者数の増加 町内の活性化
商品開発による学生のプロ意識の向上など

【滋賀短期大学】

1918年「松村裁縫速進教授所」創立以来の役100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたどる、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学ぶ力を引き出すことを基本方針としています

【アグリパーク竜王】

1996年に体験型農業公園として開園し、地元の山之上生産組合の栽培された農産物の流通・誘客を事業展開してきた。直売所だけでなく、果樹狩りの受付や、田園資料館、動物ふれあい広場の運営等を行う。2015年4月に道の駅に登録され、2016年に重点道の駅に登録された

道の駅「アグリパーク竜王」と大学滋賀短期大学との連携②



令和元年度 取組み内容：竜王産フルーツを使った商品の販売

竜王町で採れた、滋賀ブルーベリーと桃を使った商品の販売
滋賀短期大学の石井先生により2019年8月3日に行われた竜王町の夏祭りにて
竜王産ブルーベリーと桃を使った商品を販売

【実習成果】

- ・白桃ブランマンジェはコンポートと桃のソースを作って使用
- ・ブルーベリーはブルーベリーソースを作って使用
- ・製造数は各100個
- ・料金は100円にて販売
- ・完売することができた



【実習を終えて】



暑い中での販売でしたが、完売することができました
参加させていただきました学生は、作る喜びと、商品が売れていくことの楽しさを味わうことができ、貴重な体験ができました

令和元年度 取組み内容：竜王町の歴史や昔ながらの遊びを体験を通じて楽しみながら知る

3月8日に田園資料館にてイベントを企画していましたが、
新型コロナウイルスの為、イベント中止となりました

【実施内容・成果】



■2月末、3月の1週目に打ち合わせをする予定でしたが、イベント延期に伴い、打ち合わせ日程を延期イベントの再開を待つ再度話し合いを持つ予定

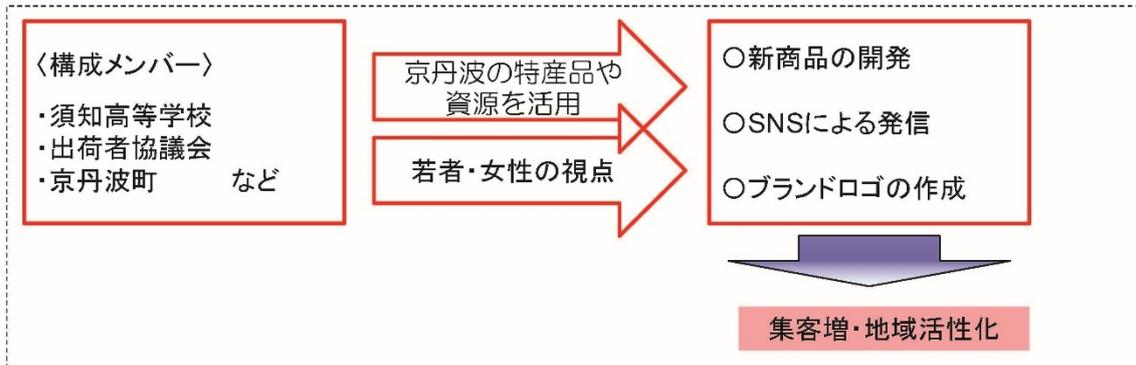
■イベントは中止となりましたが、アグリパーク竜王として1月に凧揚げ。2月～4月までひな人形の展示
3月に駄菓子屋を設置しました

道の駅「京丹波 味夢の里」と平安女学院大学国際観光学部との連携①



平成27年度に開業した道の駅「京丹波 味夢の里」における京丹波ブランド商品の検討、味夢の里等で販売する新商品の創作を目指し、ブランド検討委員会を立ち上げ平安女学院大学と連携を図り取り組みを進めている。

<概要>



<連携大学の紹介>

平安女学院大学国際観光部は、国際観光学に関する専門的知識を涵養するとともに、異文化を理解し、ホスピタリティー精神に富む人間性豊かな人材の育成を目的とされています。京丹波町とのご縁は、観光実習のため来町されたことをきっかけに道の駅のブランド検討委員会に参画していただいています。本町では、意欲的に学ぶ学生のアイデアを採り入れながら地域振興に繋げて参ります。

道の駅「京丹波 味夢の里」と平安女学院大学国際観光学部との連携②



2019年度～
 取組み内容：京丹波ブランド商品の検討、味夢の里等で販売する新商品の創作を目標に！！

【ブランド検討検討委員会の立ち上げ】

参画団体：平安女学院、須知高校、出荷者協議会、京丹波町、指定管理者等



2019年度



SNS映えのする商品を目指し、意見を集約。コンビニなどで売り出され始めた**バスクチーズ**に目を付け、『**黒豆バスクチーズケーキ**』を開発。

2020年度



ブランド検討委員会全体の**共通デザイン**を作成するため、ロゴマークの制作を開始。

統一感を持たせることで**ブランドの印象付け**を目指す。

京丹波町道の駅連絡協議会と大阪大学との連携①



平成29年12月に設立した「京丹波町道の駅連絡協議会」と大阪大学が連携して、若者ならではの視点
 ・感性を活かし、町内4つの駅の活性化と地域の発展に向けた取り組みを実施。

<各駅の課題>

- 町内4つの道の駅「丹波マークス」「京丹波味夢の里」「瑞穂の里・さらびき」「和」それぞれの持つ課題の確認
- 「丹波マークス」「和」・・・今日と縦貫自動車道の全線開通により、自動車通行量が減少し、それに伴い入込客数が減少傾向にある
- 「瑞穂の里・さらびき」・・・平成29年に発生した台風などの豪雨災などにより国道173号で土砂崩れが発生通行止の措置により入込客数が減少傾向
- 「京丹波・味夢の里」・・・道路通行量、入込客数、運営ともに課題はないが、訪れる来場者への観光情報、施設情報等の効果的な情報発信と、来場者の町内観光施設等への周遊・送客が課題

反映

<企画・提案>

- ①食のまち「京丹波町」
丹波黒大豆・丹波くり・大納言小豆・丹波松茸・本しめじ など、全国的にも有名な「食材」が豊富
“意外”なところで「さば街道」との直接的な関係は薄いですが、京丹波町内では昔から「さば」料理が豊富
- ②魅力の活用
“意外”な「さば」料理を「さばメシ」と命名し、「京丹波町さばメシ街道」プロジェクトを立ち上げ
町内の飲食事業者と提携し、町内のオリジナリティあふれる「さばメシ」を食べ歩き
- ③メディアとSNSの活用
一般的な旅行雑誌はもとより、バイクや自転車などターゲットを絞った専門雑誌等への掲載
若者ならではのSNSを活用した情報発信



<期待する効果>

発展

- ・まちの新たな魅力による町内周遊客の増加
- ・3駅「丹波マークス」「瑞穂の里・さらびき」「和」への入込客数の増加
- ・地域経済の活性化

京丹波町道の駅連絡協議会と大阪大学との連携②



令和元年度 取組み内容：冊子の編集



大学連携に取り組んだ成果品



※現在編集中心につきイメージです。

島根県西部道の駅と島根県立大学との連携①



島根県西部地域の「道の駅」(全12駅)と島根県立大学の学生が連携して、「道の駅」の連携・活性化を目的とした取り組み(facebook PRポスター作成、PR動画作成)を実施。

平成30年度より、島根県西部地域の「道の駅」(12駅)の連携・活性化を目的とした意見交換会を開催。
 ●島根県西部地域道駅：グリーンロード大和、瑞穂、インフォメーションセンターかわもと、サンヒコこうつ、ゆうひパーク浜田、ゆうひパーク三隅、匹見峠、サンエイト美都、シルクウェイにちはら、かきのきむら、津和野温泉なごみの里、むいかい温泉

【道の駅調査・ヒアリング】

「道の駅」4駅を選定し、道の駅調査や駅長ヒアリングを実施

●実施時期：令和元年10月

●訪問道の駅：ゆうひパーク浜田
 ゆうひパーク三隅
 シルクウェイにちはら
 津和野温泉なごみの里



①「道の駅 島根県」facebookの開設PRポスターを作成



②「道の駅」PR動画を作成



【島根県立大学からの提案】

- ①「道の駅」facebookの開設に合わせたPRポスター作成
- ②「道の駅」のPR動画作成

【大学紹介】

島根県立大学は、地域のニーズに答え、地域と協働し、地域に信頼される大学を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりに取り組んでいます。



【島根県西部地域の道の駅】



島根県西部地域の道の駅と島根県立大学との連携②



令和元年度 取り組み内容：facebook PRポスター作成

facebook PRポスター作成



島根県内の全道の駅を取り入れたPRポスター

島根県内の各道の駅で開設しているfacebookをプラットフォームとして見れるfacebook「道の駅 島根県」を開設※。この開設に合わせ、島根県立大学の学生と開設をPRするPRポスターを作成。



開設された「道の駅 島根県」facebook

作成したポスターを、道の駅や市役所等で掲示し、開設をPRしました。

※facebook「道の駅 島根県」は、島根県主体で開設



QRコード

令和元年度 取り組み内容：道の駅PR動画作成

道の駅PR動画作成

<動画制作過程>



※他の「道の駅」を作成後、Youtubeでの公開も検討中！

島根県西部地域の「道の駅」より4駅を選定し、「道の駅」の見どころを紹介するPR動画を作成。

4班(5名づつ)に分かれ、施設紹介から、駅長インタビュー、食レポートなど各班個性のある動画が完成。

作成された動画を、facebookや情報コーナーで紹介しています。



駅長による施設紹介



「ゆうひパーク浜田」のPR動画



「津和野温泉なごみの里」のPR動画

かざはや さとふわり
道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学との連携①



平成29年から始動した愛媛大学社会共創学部との産学連携企画である「ふわり活性化プロジェクト」。道の駅の役割が変化中、元気に稼ぐ地域経営の拠点として道の駅の力を高め、魅力ある地域づくりに貢献すべく企画の検討・実践に取り組んでいます。当プロジェクトの活動が、道の駅の活性化はもとより、北条地域全体の活性化や地域の課題解決の担い手となる人材育成へ繋がるよう、これまで様々な取り組みを行ってきました。

ふわり活性化プロジェクト始動

現地を知る

H29年度 (H29.5)

○道の駅と地域を知るための現地踏査、模擬WSでの道の駅活性化方策の検討・提案



連携の試行実施

H29年度 (H30.2)

○道の駅と大学による連携の取組を試行的に実施
→道の駅定例イベント「柑橘まつり2018」への参加



連携の体制強化

○連携を継続するための仕組み
→講義と連動した取組の実施

R1年度 (R1.6)

○道の駅閑散期における新イベント「ふわたま祭」の企画・開催
→学生による企画検討、道の駅や地元農家への提案など

H30年度 (H31.2)

○「柑橘まつり2019」への出店

R1年度 (R2.2)

○「柑橘まつり2020」への出店
→参加学生数の拡大
→学生によるイベント運営サポート

道の駅と北条地域の活性化

■愛媛大学社会共創学部

愛媛大学は、7学部と大学院6研究科からなる四国最大の総合大学。社会共創学部では、様々な地域社会の持続可能な発展のために、地域の人達と協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、地域社会を価値創造へと導く力を備えた人材の育成を目指している。

■道の駅「風早の郷風和里」

山と海に囲まれた自然豊かな場所にある道の駅。朝採れ新鮮野菜だけでなく、魚介類、手作りの惣菜や漬物など、バラエティに富んだ地元産品を購入することが可能。目の前の長浜海岸は、夏になると海水浴客で賑い、展望台から見える美しい夕日は、道の駅の自慢の1つ。

かざはや さとふわり
道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学との連携②



令和元年度 取組み内容：道の駅閑散期における新イベント「ふわたま祭」の企画・開催

- 道の駅が閑散期を迎える6月に道の駅の活性化を図るため、この時期旬を迎える地元農産物の「玉ねぎ」に着目した新たな連携イベント「ふわたま祭」を企画・開催。
- イベント開催に向けて、学生による企画会議や、道の駅・地元農家との企画講習会、玉ねぎ収穫体験などを実施。
- イベント当日は、玉ねぎを使った学生考案の商品を販売し、閑散期の道の駅の活性化や利用者との交流を図った。



令和元年度 取組み内容：道の駅定例イベント「柑橘まつり2020」への出店

- 道の駅で例年開催されている一大イベント「柑橘まつり2020」に愛媛大学ブースを出店。
- 愛媛大学ブースでは、学生が考案したみかんを用いた商品の販売やみかん足湯の提供を行うなど、来訪者へ心暖まるおもてなしを実施するとともに、道の駅が行う人気のふるまい（ししなべ・おしるこの無料配布）を学生がサポート。
- 出店を通じて、地元特産品である柑橘類を幅広い年齢層の方々へアピールすることで「柑橘まつり」を盛り上げ、道の駅の更なる活性化に貢献。



道の駅「みえ」と別府大学との連携①



道の駅「みえ」と別府大学の学生が連携して、地元の特産物を活用したグルメ商品を開発地域活性化に向けた“「道の駅みえ」地産地消プロジェクト”に取り組んでいる。

平成28年度から取り組んでいる“「道の駅みえ」地産地消プロジェクト”では、毎回地元の食材を使った魅力的な商品が生まれている。

| | | |
|--|---|-------------------|
| 平成28年度 里芋の親いもを使った 大好評の「おやこロバーガー」 | 平成29年度 高糖度甘諸ベニハルカを使った 皮まで食べられるけん!「みえ丸ごとほてと」「乙女のサクフワ ダフィン」 | 平成30年度 イチゴを使った |
|--|---|-------------------|



【別府大学について】

別府大学は、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づいて、学問研究の究極目的を真理の探究に置いて、すぐれた学問研究の実現をめざすとともに、学問研究に基づいて養われる深い教養に基礎づけられた自由な人間、高い専門能力と広い教養を身につけ、豊かな人間性を備え、進んで社会に貢献しようとする人材を養成することを目的としています。

また、地域にある大学としての自覚に基づいて、人材の育成を通じて地域社会に貢献すると同時に、学問研究を通じて学術・文化・社会の発展に寄与することをめざしています。

【道の駅「みえ」について】

道の駅「みえ」は、地元の方々と季節毎のお祭りやイベントで連携しており、地元の方々にとっても憩いの場となっています。



道の駅「みえ」と別府大学との連携②



令和元年度 取組み内容：特産物を使用した加工品の商品開発・販売②

- 全国道の駅連絡会の勤める調理師学校との商品開発を実施
- 平成30年度にイチゴ、令和元年度にブルーベリーを使ったお菓子「ダフィン」の開発
- サマーイベントにて商品の発表、販売を実施

- 令和元年8月24日（土）サマーイベント「浴衣デー」において発表、学生自ら販売
- 命名「乙女のサクフワダフィン」（イチゴ味、ブルーベリー味）



▲サマーイベントでの販売の様子



▲大学の調理実習室での会議の様子

サマーイベント参加学生



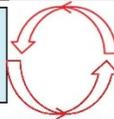
道の駅「つの」と宮崎大学との連携①



宮崎大学地域資源創成学部・同地域経営論ゼミと連携して道の駅「つの」を核とした地域活性化の取り組みを展開。「道の駅」を活用した政策提言で内閣府地方創生政策アイデアコンテストで九州経済産業局長賞受賞。データに基づく提言とイベント支援で地域活性化に貢献。



【宮崎大学地域資源創成学部】:定員90人
地域資源を活用した地域活性化
地域を創るリーダーを育む実践教育



【都農町】:人口約1万人
口蹄疫被害(2010年)からの復興拠点づくり
地域資源を活用した稼ぐ力の向上

道の駅「つの」を核とした主な地域活性化の提案・実践教育等(2019年度)

- 7月【学部】地域探索実習Ⅱ【道の駅つの】 地域資源の利活用と地域活性化に関する実習
- 9月【地域経営論ゼミ】道の駅利用者アンケート調査
- 10月【同】 内閣府地方創生政策アイデアコンテスト2019応募(九州経済産業局長賞受賞)
道の駅「つの」を拠点とした食の起業家育成プランを提言
- 2月【地域経営論ゼミ】結びの祭りイベント支援/道の駅新商品テストマーケティング調査
- 3月【学部】地域資源創成学シンポジウムin都農(新型コロナウイルス対応のため開催延期)
「地域資源を活かした地方創生～道の駅の活用とその可能性」



2020年4月 宮崎大学地域資源創成学部 都農寄附講座 の設置へ



【国立大学法人宮崎大学:宮崎市】1949(昭和24)年に創立、2016年には教育文化・医・工・農に加えて地域資源創成学部が設置。同学部は、地域を創るリーダーの養成をスローガンに異分野融合的視点と地域で活躍できる実践力をもつ学生を輩出するための特色ある教育が行われている。



【道の駅「つの」:都農町】:2012年登録。年間平均利用者数約70万人。宮崎市と延岡市のほぼ中間地点の国道10号線沿いに口蹄疫被害からの復興に向けた地域活性化拠点として設置。日向国の一宮である都農神社に隣接する。地元産の農水産物や地元産トマト使用のトマトひねり揚げが好評。

道の駅「つの」と宮崎大学との連携②



令和元年度 取り組み内容:【地域資源創成学部】地域探索実習Ⅱ「道の駅つの」

実習の目的:学部2年生の必修の実習科目として道の駅「つの」の所在地である都農町および同町の主要産業・企業を視察、また、関係者等との意見交換を通じて

- ①経営・マーケティング手法と地域資源の理解、②地域・企業の課題分析 を実施

学内にて道の駅「つの」の役割、都農町内の地域資源についての事前学習実施



都農町内の農業・漁業・ワイナリーを視察し、地域資源の利活用の現状と課題等についてヒアリング



・都農町内の農水産物・加工品が販売される道の駅「つの」が果たす町外から稼ぐ(外貨獲得)拠点としての役割・経営手法について学ぶ



生産農家訪問



都農漁港



道の駅つの



都農ワイナリー

写真は、2018・2019年度の地域探索実習Ⅱ(道の駅「つの」の様子

道の駅「ぎのざ」と名桜大学との連携①



これまでの道の駅「ぎのざ」での取組みを進展させ、利用者アンケートを実施。利用者アンケートでは、詳細なニーズを把握できるよう対面での聞き取りによって、より充実した内容となるよう工夫し、今後の展開と課題を検討した。

これまで、道の駅「ぎのざ」のニーズ把握及び、企画立案のため、道の駅見学会及び意見交換会を実施。(道の駅関係者、観光協会、学生)



進展

今年度の名桜大学における講義「プロジェクト学習」のなかで検討を進めた結果、今後の課題として、①若い世代の利用者増、②認知度向上、③外国人への情報発信 について抽出した。

利用者のニーズ把握

実際の利用者へ道の駅「ぎのざ」における利用者アンケートを実施。

利用者アンケートでは、来訪客の属性に加えて目的・動機や行動内容、新しいサービスへの期待、満足度評価などによって利用者が重視する要素を把握できるよう工夫。また、施設運営には、物産販売や食事等による利益が重要となってくることから、利用者数と売上高の関係を分析し、利用者の実態を確認する。

実施内容

調査計画 1) 調査の対象：道の駅「ぎのざ」の利用者
2) 調査の方法：アンケート調査の対面での聞き取り、目標回収数：約140票

名桜大学は、「平和・自由・進歩」の建学の精神とし1994年(平成6年)に設立されました。沖縄本島においては、熾烈な地上戦が展開され、われわれの祖先が築きあげた文化遺産がことごとく破壊され、20万余の尊い生命が失われた。従って県民の平和に対する願望は強烈なものがある。本学は、そのような歴史的背景を踏まえ、世界平和の維持と構築に貢献することによって、平和発達の使命を果たすべく創設された。



「水と緑と太陽の里」をキャッチフレーズに、沖縄本島の国道329号の東海岸中部に位置する道の駅「ぎのざ」。2014年に県内8番目の道の駅「ぎのざ」が誕生しました。自然豊かな宜野座村の風土が育んだ新鮮野菜の販売や、旬の果物を使ったスイーツも人気。大型遊具や水遊び広場など、ファミリーで楽しめる他、飲食店や研修施設があり、様々な用途でご利用できる憩いの場となっております。



道の駅「ぎのざ」と名桜大学との連携②



令和元年度 取組み内容：対面式アンケートによる利用者意識調査

【アンケート調査内容・結果】

◀ 調査実施日：令和2年1月18日から1月23日、回収数128票 ▶

- 改善が必要と思われる項目
「駐車場の広さ」「店舗数」など
- あったら良いサービス(自由意志)
「特産品をさらに増やして欲しい」等々。
- 満足度
「休憩所の使い勝手」、「店員の対応の良さ」
→「店員の対応の良さをさらに高めていく事」が利用者満足度の向上につながる。
- 利用者が希望している「サービス」や「イベント」
給油所やATM・特売日などの日替わりのイベント
伝統芸能系のイベント・子供向けのイベント など
- 自由回答欄
「宜野座らしい特産品や品揃え店舗数が増えたらいい」「給油所やATM、ドリンクサービスなどがあっていい」「芸能イベント開催、写真映えるものがあるといい」
店員の対応が良く、満足度にも影響を与えている。



【アンケート調査用紙】

【道の駅利用者アンケート調査報告状況】



【今後の展開と課題】

- イベントやコンサートを開催。
EX：名桜大学Eイサーに出演依頼。
キャンプ中に阪神タイガースファン向けのイベント開催
- 屋内に子供が雨でも遊べるキッズスペースの設置。
- 屋外にドッグランスペースを設置。
- 地元、宜野座特産の野菜や宜野座らしい商品の開発。
- インスタ映えのような写真映えするもの



【まとめ】

今回の利用者アンケートから抽出されたニーズに基づいて、地元宜野座村や道の駅運営者と意見交換を行い、今後のプロジェクトにつなげていく。